2022 韓日交流 作文コンテスト

한일교류 작문 콘테스트

作品集

募集は７部門

エッセイ

日本語エッセイ部門
韓国語エッセイ・中高生部門
韓国語エッセイ・一般部門

川柳・俳句

日本語川柳・俳句部門
韓国語川柳・俳句部門

韓国旅行記

日本語 韓国旅行記部門
韓国語 韓国旅行記部門

〔主催〕駐日本国大韓民国大使館 韓国文化院・東京韓国教育院
〔共催〕駐大阪大韓民国総領事館 韓国文化院 〔協力〕韓国観光公社、韓国コンテンツ振興院、韓国農水産食品流通公社

2022
韓日交流
作文
コンテスト

한일교류 작문 콘테스트

作品集

〔主催〕駐日本国大韓民国大使館 韓国文化院・東京韓国教育院
〔共催〕駐大阪大韓民国総領事館 韓国文化院
〔協力〕韓国観光公社、韓国コンテンツ振興院、
韓国農水産食品流通公社

実施概要

事業名

韓日交流 作文コンテスト 2022

～ 皆さんの想いを伝えてみませんか ～

【日程】

◉ 作品募集：2022 年 4 月 18 日（月）～ 8 月 21 日（日）
◉ 審査：2022 年 8 月 22 日（月）～ 9 月 13 日（火）
◉ 審査結果発表：2022 年 9 月 16 日（金）
◉ 受賞作品展示：2022 年 10 月 7 日（金）～ 15 日（土）

【趣旨】

次世代を担う両国の子供から一般の方まで幅広い方々を対象に、互いへの想いを伝え合い、新しい「絆」作りのためのエッセイ、川柳・俳句、韓国旅行記を募集し、表彰する。

【募集部門】 全７部門

＜エッセイ＞

日本語エッセイ部門：中学生から一般の方までが対象

韓国語エッセイ 中高生部門：中学生から高校生までが対象

韓国語エッセイ 一般部門：一般の方が対象

＜川柳・俳句＞

日本語川柳・俳句部門：小学生から一般の方まで対象

韓国語川柳・俳句部門：小学生から一般の方まで対象

＜韓国旅行記＞

日本語 韓国旅行記部門：小学生から一般の方まで対象

韓国語 韓国旅行記部門：小学生から一般の方まで対象

【応募規定】

＜日本語エッセイ、韓国語エッセイ部門＞

◇ テーマ（次の中から択一）

A 「私の好きな韓国文化」（ex. 韓服、キムチ、韓国語など）

B 「私が好きな韓国コンテンツ」（ex. K-POP、ドラマ、映画、ゲームなど）

C 「私が考える韓日交流」

D 「2002 年韓日ワールドカップの思い出と未来」

E 「私が伝えたい平和へのメッセージ」

＜日本語川柳・俳句、韓国語川柳・俳句部門＞

◇ テーマ

自由（但し、日本語川柳・俳句部門の場合、韓国または韓国語に関するもの）

＜日本語 韓国旅行記部門、韓国語 韓国旅行記部門＞

◇ テーマ

韓国旅行（韓国旅行中に感じたことや思い出、エピソードなどを各部門の言葉で旅行記にして投稿）

【審査方法】

駐日韓国大使館 韓国文化院内で部門ごとに審査委員が集まり、審査会を開催

【審査員】

◇ 日本語エッセイ、日本語 韓国旅行記部門

呉英元（二松学舎大学名誉教授及び駐日韓国文化院 世宗学堂長）

桜井泉（朝日新聞記者）

◇ 韓国語エッセイ中高生・一般部門、韓国語 韓国旅行記部門

李允希（東京成徳大学教授）

南潤珍（東京外国語大学教授）

武井一（東京都立日比谷高等学校教員）

◇ 日本語川柳・俳句、韓国語川柳・俳句部門

兼若逸之（元東京女子大学教授・駐日韓国文化院 世宗学堂運営委員）

曺喜澈（元東海大学教授・駐日韓国文化院 世宗学堂運営委員）

2022 韓日交流 作文コンテスト

審査結果（総応募作数：3,217 作）

日本語エッセイ部門（応募作数：236）

◇ 最優秀賞（1 名）
— 舟橋 寛延（岐阜県）

◇ 優秀賞（2 名）
— 今 未依那（大東文化大学）
— 熊野 紗綾（千葉県）

◇ 佳作（4 名）
— 長谷川 萌乃（鳥取県立境高等学校）
— 小川 知子（広島県）
— 小川 茉莉（広島県）
— 高田 真歩（兵庫県）

◇ 入選（12 名）
— 渡邊 竣介（立教池袋高等学校）
— 坂本 颯太（東京都立大学）
— 諸隈 礼子（福岡県）
— 清水 遥佳（神奈川県立横浜国際高等学校）
— 柳田 結衣（新潟大学）
— 小川 湖羽（広尾学園高等学校）
— 阿部 麗妃（今治明徳高等学校）
— 柴田 柚希（盈進中学校）
— 一ノ瀬 章子（山口県）
— 松井 海結（帝塚山学院大学）
— 山極 笑子（埼玉県）
— 小松崎 有美（埼玉県）

日本語 韓国旅行記部門（応募作数：55）

◇ 最優秀賞（1 名）
— 小島 奈那子（長崎県）

◇ 優秀賞（2 名）
— 斉藤 穂高（神戸大学大学院）
— 田中 俊哉（長野県）

◇ 佳作（4 名）
— 地藤 智湧（香川県立高瀬高等学校）
— 林 政憲（大阪府）
— 今西 はな（グリネル大学）
— 中川 真衣（大阪府）

◇ 入選（12 名）
— 波形 洋子（東京都）
— 長田 秀樹（大阪府）
— 大津 美咲（成蹊高等学校）
— オーロークサブリナ 桜子（神奈川県立横浜国際高等学校）
— 西嶋 小百合（三鷹市立第二中学校）
— 濱﨑 蒼生（愛知県立大学）
— 稗圃 慶子（茨城県）
— 平手 亜紀世（愛知県）
— 田渕 あずさ（兵庫県）
— 藤原 達也（沖縄県）
— 佐々木 真平（東京都）
— 柳井 貴士（愛知県）

韓国語エッセイ 中高生部門（応募作数：111）

◇ 最優秀賞（1 名）
— 久保 直香（山口県立山口高等学校）

◇ 優秀賞（2 名）
— 山岡 美月季（広島市立舟入高等学校）
— 冨樫 舞衣（鹿島朝日高等学校）

◇ 佳作（4 名）
— 塩崎 由梨果（神奈川県立神奈川総合高等学校）
— 長田 睦樹（島根県立隠岐高等学校）
— 大石 光莉（八洲学園大学国際高等学校）
— 磯本 夏巳（和歌山県立星林高等学校）

◇ 入選（12 名）
— 伊礼 萌乃（沖縄県立与勝高等学校）
— 酒井 小蒔（関東国際高等学校）
— 佐々木 美樺（関東国際高等学校）
— 寶積 應公（山手学院高等学校）
— 田安 ひらり（神田女学園高等学校）
— 佐藤 舞衣子（神奈川県立横浜国際高等学校）
— 池田 さくら（神奈川県立横浜国際高等学校）
— 酒井 望帆（清泉女学院中学高等学校）
— スマイリ 樹璃（仙台育英学園高等学校）
— 伊藤 彩世（早稲田実業学校高等部）
— 三木家 和珠（長崎県立対馬高等学校）
— 野坂 礼祢（長崎県立対馬高等学校）

韓国語エッセイ 一般部門（応募作数：227）

◇ 最優秀賞（1 名）
— 川村 文（東京都）

◇ 優秀賞（2 名）
— 山極 尊子（埼玉県）
— 白根 莉子（二松学舎大学）

◇ 佳作（4 名）
— 蓬田 理菜（新潟大学）
— 前田 美結（昭和女子大学）
— 稲田 志乃（徳島県）
— 井関 彩乃（帝塚山学院大学）

◇ 入選（12 名）
— 上田 優衣（帝塚山学院大学）
— 渡辺 厚子（東京都）
— 香村 かをり（東京都）
— 森 勧喜（慶應義塾大学）
— 浜田 恵美子（大阪府）
— 小平 麻衣（神奈川県）
— 藤野 雪奈（神田外語学院）
— 鄭 興玲（創価大学）
— 松井 海結（帝塚山学院大学）
— 網干 未悠（島根県立大学）
— 長谷川 藍（東京外国語大学）
— 足達 優希（山形県）

韓国語 韓国旅行記部門（応募作数：79）

◇ 最優秀賞（1 名）
— 湯澤 葉子（東京都）

◇ 優秀賞（2 名）
— 尾崎 友香（兵庫県）
— 山﨑 智子（愛知県）

◇ 佳作（4 名）
— 新田 萌夏（大阪府）
— 小谷 里彩子（大阪府）
— 斉 智司（埼玉県）
— ペンネーム：무궁화 꽃（奈良県）

◇ 入選（12 名）
— 堀内 優（奈良県）
— 安部 ひとみ（愛知淑徳大学）
— 亀田 悠香（浦和明星女子中学・高等学校）
— 小熊　彩未（昭和女子大学）
— 菊池 みゆき（千葉県）
— 高田 悦子（東京都）
— 宮下 明美（愛知県）
— 草野 洋子（千葉県）
— 梶原 芙花（聖心女子大学）
— 佐藤 詩織（東京中華学校）
— 辻 梨里香（北星学園大学）
— 藤中 篤（京都府）

2022 韓日交流 作文コンテスト

日本語川柳・俳句部門（応募作数：1,802）

◇ 最優秀賞（1 名）
— 藤野 美保子（神奈川県）

◇ 優秀賞（2 名）
— 青柳 婦美子（東京都）
— 松本 美和（東京都）

◇ 佳作（4 名）
— 白津 祈恵子（宮城県）
— 伊藤 明子（愛知県）
— 清水 璃乃（鳥取県立境高等学校）
— 前田 夢子（千葉県）

◇ 入選（12 名）
— 永松 寛子（福岡県）
— 古賀 史子（愛知県）
— 辻井　心（京都国際高等学校）
— 川崎 奈緒実（大阪府）
— 清宮 まり（東京都）
— 黒澤　広（志村第一小学校）
— 村松 きあら（新潟大学）
— 西 祥代（和歌山県）
— 堀水 芽依（東京都）
— 鳴海 理香（青森県）
— 仲村 祥子（東京都）
— 山田 久美子（神奈川県）

韓国語川柳・俳句部門（応募作数：707）

◇ 最優秀賞（1 名）
— 長谷川 衣津子（東京都）

◇ 優秀賞（2 名）
— 高岡 寿絵（京都府）
— 大内 彩衣（神奈川県）

◇ 佳作（4 名）
— 三輪 夏未（立教大学）
— Mung Gabriel（東京都立深川高等学校）
— 今野 秀子（宮城県）
— 藤原 優季（神田女学園中学校・高等学校）

◇ 入選（12 名）
— 金 美珠（京都国際中学校）
— 川南 愛（北海商科大学）
— 羽立 奈々花（北海商科大学）
— 本間 夏海（新潟県立大学）
— 鈴木 凪紗（神奈川大学）
— 尹 之相（宮城県仙台二華中学校）
— 井上 和恵（東京都）
— 田村 安澄（横浜市立大学）
— 木下 亜衣（鳥取県立境高等学校）
— 大江 千晴（東京都）
— 青木 創士郎（啓明学園高等学校）
— 新澤 明子（大阪府）

賞

◇ 最優秀賞（各部門 1 名、計 7 名）
賞状、副賞（日韓往復旅行券 2 名分、韓国ドラマ DVD セット）

◇ 優秀賞（各部門 2 名、計 14 名）
賞状、副賞（日韓往復旅行券 1 名分、韓国ドラマ DVD セット）

◇ 佳作（各部門 4 名、計 28 名）
賞状、副賞（ブルートゥースイヤホン、K-POP CD セット）

◇ 入選（各部門 12 名、計 84 名）
賞状、副賞（韓国語教材、K-POP CD セット）

2022 韓日交流 作文コンテスト

審査評

日本語エッセイ・旅行記部門　審査評

審査委員　呉英元〔二松学舎大学名誉教授〕

今年も世界が苦しい新型コロナ禍や辛い戦争の話などで心悲しくても、皆さまの心のこもった作品をお寄せくださった喜びに敬意を表します。

日本語エッセイ部門の最優秀賞は、韓国語講師の舟橋寛延さんの「韓国語講師のユウウツと夢想」。初級クラスで「문＝扉、戸」の単語を教えている話から「板門店」で終わる話ですが、実に作者の心奥底から温かく、深く、広く響く志の尊さに“本物だ”と感じさせられました。

韓国南北の38度線境界地にある「板門店＝판문점」の「門＝문」の話ですが、その言葉で、作者は「教壇で立ち往生する瞬間、韓国語講師のユウウツ」。しかし、「私には夢がある」と。そして「誰もが自由に通行できる板門店」。平和的、民主的な統一を願う歴史的背景の説明を論じ、「声を張り上げ教えている…日々の平凡な授業のその先に…平和になった韓半島、東アジアが実現していることを夢想しながら」。文章の終わりには、板門店が「新しくできた朝鮮戦争の歴史博物館」になって、「昔の引率生徒に語る憂鬱ではなく夢で逢える喜びの姿を描く」。と、そう願いたいものでした。

韓国旅行記部門の最優秀賞は、小島奈那子さんの「反日運動のかわりに私が韓国で見たもの」。2019年9月、日韓関係は悪化の一途を辿っていて、メディアが連日反日運動を報じていた頃、本当の状況を知りたくって韓国へ渡って自ら事実を確かめた話。読みながら目頭が熱く、胸打たれました。4泊5日にわたる滞在中、日本人だという理由で嫌な体験をしたことは一度もなく、そのかわりに自ら見たもの、感じたこと、美しい自然や温かく出会った感動などが奇麗な文章で綴られています。

その他、エッセイ部門についての優秀賞は、今未依那さんの「ラブレター」。“大好きなあなた、韓国へ”と始まる文章も面白かったです。同じ優秀賞で、熊野紗綾さんの「私が好きな韓国コンテンツ」。文学作品の評論的で、水準高い文学の世界に深く、悲しい深淵の情緒を交わる味わいを感じられ深く考えさせられました。佳作は、長谷川萌乃さんの「ハングル」。実に可愛い心持で、それに論理がしっかりしていて、ハングルについても良く理解していると思いました。同じ佳作で、小川知子さんの「私が考える韓日交流」。読み進めているうちに温かい韓日交流の深い友情が微笑ましく感動的でした。

韓国旅行記部門での優秀賞は、田中俊哉さんの「安東での温かなもてなし」。旅行について計画性が上手く、用意周到に行うことによって人との交流や温かいもてなしを通して誠の親善を深めると思いました。佳作は、今西はなさんの「日本人学生、ソウルで道案内」。ソウルで日本人留学生に韓国人が道案内されたらどういう気持ちになるであろうという心理的思索から、自分の「ある思いを」瞬間迷い、深刻に考え、思索し、正しい道へと進むべく判断を決めるのは勇気であったという描写が面白いと思いました。

日本語エッセイ・旅行記部門　審査評

審査委員　桜井泉〔ジャーナリスト〕

韓国に行ける日を心待ちに

コロナ禍も3年目に入り、韓国に気軽に行けない日々が続いています。作品を読むと、自由に往来できる日を心待ちにする皆さんの気持ちが伝わって来ます。あともう少しの辛抱でしょう。

日本語の旅行記部門最優秀賞は小島奈那子さんの「反日運動のかわりに私が韓国で見たもの」。2019年9月、日本製品の不買運動が広がっていたときに4泊5日の旅行をしました。しかし、「日本人だという理由で嫌な体験をすることはおろか、テレビで見たような反日の集会も、NO JAPANのチラシも、一度も目にすることはなかった」。その代わりに見たのは、「美しい自然やあたたかい心にあふれた韓国」でした。マスコミは、現実の一部を切り取って報道しがちです。でも現地に行けば、まったく違う一面を見ることができます。難しい時期にあえて韓国に行った勇気と好奇心をたたえたいと思います。

優秀賞は斉藤穂高さんの「釜山旅行、そして母の記憶」。結婚を機に故郷を離れた母は、大阪でキムチを売っていました。毎晩、子供を寝かしつけてキムチを仕込む母。大学生になって釜山を旅して、キムチをほおばると、幼い頃のそんな記憶がよみがえりました。異国で苦労しながら育ててくれた母への感謝の気持ちが伝わってきます。

もう一人の優秀賞は、「安東での温かなもてなし」の田中俊哉さん。安東を紹介するホームページの管理者に韓国語で連絡すると、すぐに返信があり、親切に案内してくれました。人との交流こそが旅のだいご味。韓国人の郷土愛と、人との壁を感じさせない親切さを感じさせます。逆に、日本人だったら、初対面の旅行者にここまで親切にしてくれるかなと思いました。

日本語エッセイ部門最優秀賞は、舟橋寛延さんの「韓国語講師のユウウツと夢想」。舟橋さんは、生徒が、朝鮮戦争の休戦協定が結ばれた「板門店」を知らず、言葉を失いました。でもそこで立ち止まらず、板門店をも分断する軍事境界線がなくなった将来、生徒を引率することに思いを巡らせます。コロナ禍が終息したら皆さんで板門店を訪れてみてはどうでしょう。言葉を学べば、その国の歴史や人々の暮らしにも興味がわきます。

優秀賞は大学生の今未依那さんの「ラブレター」。韓国を人にたとえ、「大好きなあなた、韓国へ」という書き出しが素敵です。Kポップへの熱い思いを語る一方で、日韓関係の悪化を心配します。「喧嘩はしても平和でいよう。近い将来、仲直りしよう。私はその力になれるよう頑張るね」。今さんは「あなたの思いを私の国に伝える通訳」を目指します。

もう一人の優秀賞は、熊野紗綾さんの「私が好きな韓国コンテンツ」。今や韓国文学は、韓流の新たな分野として注目されています。「どの作家の、どの小説を読んでも、そのどれもに傷や疲れにそっと寄り添ってくれる言葉があり、美しく切なくやるせ無い言葉がある」。Kポップやドラマのことを書く作品が多い中で、韓国文学をテーマにした作品は新鮮でした。

2022 韓日交流 作文コンテスト

審査評

韓国語エッセイ・旅行記部門

審査委員　李允希〔東京成徳大学教授〕

「今年も昨年の記録を上回りました！」という嬉しいお知らせが届いたのは、私がソウル滞在中の8月末のことでした。お知らせのメールを読む前には少々緊張モードになっておりました。コロナ禍で2年半の間に日韓を行き来できず、旅行もできなかった方が多かったはずでしたので、旅行記部門の応募者数が大幅に減少するのではないかと心配していたのです。

しかし、その心配はまったくの無用で、旅行記部門でも多くの作品に出合うことが出来ました。自由に渡韓できなかったが故に、むしろ韓国の町への思い出や行きたい気持ち、憧れがにじみ出ている作品がたいへん多かったです。

今年の作品を読み始めて感じたことは、韓国語のレベルが飛躍的に伸びていることでした。韓国に行けない時だからこそ、韓国語の実力を伸ばすチャンスと捉えた方が多かったようです。

上級レベルの韓国語学習者でも簡単には身につけられない比喩表現やことわざを使った作品がかなり多く、擬声語や擬態語を適切に使った素晴らしい作品もありました。韓国語母語話者の私でさえ適切に使いこなせないオノマトペを上手に使ったハイレベルの作品に出合えて、良い勉強をさせていただきました。

審査時に私が高い評点を付けた作品は、今までと同様に美しい表現で綴った作品でした。エッセイですので、経験などを単なる記録として並べるのではなく、思いや思い出を感性豊かに美しく表現している作品に高い点を付けておりました。中には今年も私を大笑いに誘ってくださった作品がありまして、ストレスなんかどこかに吹っ飛んでしまったかのような幸せな時間を与えてくださいました。場面の描写が素晴らしく、作品を読みながらその方が遭遇した状況が目の前に広がるようでしたので、2、3度読み直しながら爆笑しておりました。皆さんの困っていた場面を読んで笑うのは失礼かもしれませんが、私が日本に来て間もないときに経験した困った場面にリンクすることもあり、みっともない自分を思い出して笑ったりもしておりました。

しかし、それらの経験が美しい思い出として皆様の記憶に残り、こりずに再び渡韓への憧れを抱いていることには頭の下がる思いが致します。
ようやく日韓を自由に行き来できるようになってきましたので、来年はホットな旅行記がたくさん応募されることを期待します。そして、一段とレベルアップした韓国語で美しく表現した作品が届くことを期待したいと思います。

今年も応募してくださった皆様に心から感謝申し上げます。そして皆様と私達の願いが叶って日韓の友情がよみがえることを切に願っています。

韓国語エッセイ・旅行記部門

審査委員　南潤珍〔東京外国語大学教授〕

昨年に引き続き韓国語のエッセイ部門（一般・中高生）と韓国旅行記部門の審査をさせていただきました。今年度の応募作も、内容面、文章の構成において完成度の高いものが多かったと思います。受賞作選びに一苦労、というありがたい経験をさせていただきました。特に旅行記部門については、コロナ禍での旅行記はなかなか難しだろう、と予想していましたが、応募作の数でも内容面においても大変優れた「作品」が多く、予想が杞憂に代わる嬉しさを味わいました。

韓国語エッセイ部門のテーマは、「私の好きな韓国文化、韓国コンテンツ、私の考える日韓交流、2002年日韓ワールドカップの思い出、私の伝えたい平和のメッセージ」でしたが、中高生部門、一般部門ともに「私の好きな韓国文化、韓国コンテンツ」に関するものが多く、実体験に基づいた作者の考えや人柄が現れる個性的な「作品」の数々だったと思います。
今回、選考に当たって私がもっとも重点をおいたのは、大きいテーマを紐とき、「自分の言葉で」身近な話として語っているものを選ぶことでしました。

中高生部門の最優秀賞に選ばれた久保直香さんの作品は、k-popやドラマなどの韓国文化に関する作品が多い中、「平和」という普遍的なテーマを、「身近（平凡）」な「花（韓国語では「和」の漢字音と同じ）」と解釈している点がとても新鮮でした。部分的に韓国語表現が滑らかでないところもありましたが、筆者が韓国語学習の途中の高校生であることを考慮し、正確さよりも個性を優先しました。

一般部門では、韓国の小説を翻訳する過程を丁寧に述べた作品や韓国語の特徴的な表現を上手く用い、文章にまとめた作品が最優秀、優秀賞に選ばれました。ご自分の体験やエピソードを取り上げた他の作品においても、単に出来ことを伝えるだけではなく、その経験を通じて感じたことやその意味を深く吟味し、今の自分につなげようとする姿勢が垣間見える作品が多かったのが印象的でした。

韓国旅行記部門は、単に旅行日程を説明するだけではなく、旅行を通じて感じたことや分かったことを綴った、完成度の高い応募作が多かったと思います。入賞作の多くは「ここでの出会を通じてこう思った」、「この経験が今の自分にこのようにむすびついている」など、旅行の経験を自分のことにつなげるものでした。

ところで今年度の旅行記部門では、作品そのものの完成度は高いけれど、はたしてこれは旅行記にふさわしい文章なのか、と思わせる作品が目立ちました。エッセイ部門に出されたらより高く評価されたはずなのに、と思いながら選考を進めたことは心残りです。来年度の応募に向けて、ご参考にしていただければ幸いです。そんな中、最優秀賞に選ばれた「釜山エピソード1」は、物語として安定した構造、ウィットに富んだ表現など、まるでひとつの「作品」といえるものでした。エピソード2も楽しみです！

以上、審査評というより感じるままを記しておきました。これからも皆さまにとって韓国語文章を書く楽しさが深まることを期待します。
ありがとうございます。

2022 韓日交流 作文コンテスト

審査評

韓国語エッセイ・旅行記部門

審査委員　武井一〔東京都立日比谷高等学校教員〕

受賞された皆さん、おめでとうございます。そして応募して下さったみなさんにもお祝いを申し上げたいです。外国語で応募すること自体が素晴らしいからです。

昨年と比べて、今年の作品は韓国語の質も内容も良いものが多く、順位をつけることが大変でした。その中で最優秀賞に選ばれたものは、韓国語エッセイ中高生部門は視点が面白いもの、一般部門は飾らない文体ながらも言葉の世界の魅力を描いたものでした。また旅行記部門は釜山での朝食の様子が目に浮かぶような作品でした。

エッセイ部門も旅行部門もテーマに即した文章を書く必要があります。文章の内容はよくても、テーマから離れてしまったものもありました。たとえば旅行記では、読み手はその場所の体験と結びついたもの、その場所だから出来た体験を期待します。ソウルのことを書いているはずなのに、主語をアテネにしても成り立つのでは、せっかくの経験が浮いてしまい、もったいないと思います。

作品の中には、普段使わないような難しい単語や言い回しで書いたものも多々ありました。そのようなものを意図的に使うのなら意味はあります。しかし、そうではないように見受けられました。エッセイや旅行記は、自分の言いたいことや経験を人に伝えるものです。他の人にも読んでもらうためには、普通に使う平易な言葉で語ればよく、必要以上に文章を飾る必要はないのです。

多くの人は、日本語で考えたことを韓国語に置き換えて書いたことと思います。その際には辞書や文法書を見たり、翻訳アプリを参考にしたりしたと思います。

翻訳アプリの性能もかつてに比べて格段に良くなりました。それでもなかなか自然な訳文にはなりません。不適切な単語を選んだり、会話やチャットなどで使われる縮約形や言い回しを表示したりすることも多いのです。その訳文をそのまま書き写すと、書き言葉の文章のはずなのに、参考にしたところだけラフな会話体や口語で書かれることになります。日本語で文章を書くときに、会話体や口語で書くことが不自然なところは、韓国語でも不自然なのです。

こういうことを避けるためには、まず書きたいこと、伝えたいことを日本語で書いてみましょう。短文の連続で構いません。この段階で人に読んでもらい、アドヴァイスをもらうことも良いと思います。それを韓国語で書くのですが、その過程でできるだけネイティヴや、韓国語の先生に韓国語の文章を見てもらうと良いと思います。作文途中でも書き終えてからでも構いません。韓国語としてきれいな文章になっているか、相応しい単語が使えているかを見てもらうのです。いろいろ指摘を受けて書いていくことが、韓国語の実力を向上させることになります。

このようなことが書けるのも、応募作品の韓国語の質が高くなったからこそのことです。より自然な韓国語で書けたら素晴らしいと思います。

川柳・俳句部門

審査委員　兼若逸之〔元東京女子大学教授〕

新型コロナ禍がなかなか収まらず、韓国へ行きたくても行けなかった人も多かったことと思います。最近、出入国の管理が緩み、行き来にやや改善がみられるようになりましたが、まだまだ以前のように自由に訪韓できる状況には至っていません。実際に見たり、聴いたり経験したりする機会が減少することは、俳句・川柳作りにも困難さを伴います。

韓国での以前の記憶を辿ったり、日常の生活を振り返ったり、身の回りを点検したり、あれこれと想像を膨らませることなど、一度立ち戻って考えてみることの必要な時期であったように思います。今回は最優秀作と優秀作の３作品についてコメントをしておきたいと思います。

まず、優秀作の「マッコリが喉へととろり春うらら」の句ですが、「マッコリーとろりー春うらら」のラ行の響きの良さが際立っています。飲む前に器の中のマッコリを小指で２、３度かき回して、そのかき回した小指をそっと舐めてから器を口に当てて飲むことをルーティンにしている人も多く、ゆっくりとした時の流れの中に幸福感が体内にしみ込んでいきます。アルコールの度数も低く、すぐに酔っぱらうこともありません。値段も手ごろです。桜でも咲いていたり、気心の知れた人が一緒であったりすればこれ以上言うことはないでしょう。

同じく優秀作の「白ごはん入れるかかけるか悩むチゲ」はいわゆる「ネコまんま」論争を思わせますが、ここではそれを問題にしているのではありません。チゲの辛さの調整も兼ねて、チゲの汁をご飯のほうにかけて食べるのか、それともご飯をスッカラクですくってチゲの方に少し浸してから食べるのか迷っている様を詠んでいます。迷いの理由の一つはチゲの種類の多さです。「キムチチゲ、スントゥブチゲ、テンジャンチゲ、ブデチゲ、カムジャチゲ、ホバクチゲ、センソンチゲ、トンテチゲ」などきりがありません。また、チゲの種類によって辛さの度合いが異なります。さらに、お店によって辛さに違いがあります。この句の妙味はこのような千変万化のチゲ料理を「さて、どうしよう」という迷いの中に辛さを封じ込めたところにあります。

最優秀作の「雨止みを農酒（のんじゅ）とチヂミで待つ田夫」は農作業が雨のために中断したときの農夫の様子を詠った句です。農酒（농주）とは田植えや稲刈りなど農繁期に手伝ってくれる人に振舞うためのマッコリで多くは妻が作ります。完成には数日かかり、それに「チヂミ」まで作るとなると妻の仕事は大変です。「田夫」とは農夫のことで、飲んだり食べたりして雨が上がるのを待つだけの夫のように妻には見えるのでしょう。しかし、文句を言っているわけでも愚痴を言っている訳でもありません。淡々と日日の生活を詠った中に夫婦関係が垣間見えていますが、日本でも同様だと作者は考えているのでしょう。

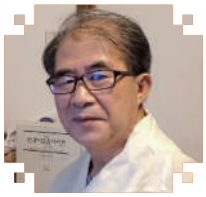
自分の句の方がいいのにと思われている方も多いことでしょう。次回の応募を楽しみにしています。

2022 韓日交流 作文コンテスト

審査評

川柳・俳句部門

審査委員　曺喜澈〔元東海大学教授〕



今年も俳句・川柳（韓国語）部門には 677 作の多くの応募がありました。

依然としてテーマはコロナ禍によって渡韓できない悔しさを詠う作品が多かったです。

最優秀賞に選ばれた、長谷川衣津子さんの

「“오케이 구글” 내 한국어 발음은 왜 몰라 주니?」

（「オーケーグーグル」私の韓国語発音は何で聞き取れないの？）

自分の韓国語の音声に反応してくれない検索アプリ Google にもどかしさを感じた気持ちをしっかりまとめてくれました。私もよく、受講生から Papago など翻訳アプリに向かって韓国語を話したのに認識してくれなかったという話を耳にしてきたので、長谷川さんはみなさんのお気持ちを代弁してくれたような気がしました。

また、優秀賞の大内彩衣さんの

「돗자리 깔고 배달을 기다리는 한강의 노을」

（茣蓙を敷き　出前を待つ　漢江の夕焼け）

夕焼けがきれいな漢江のほとりで、シートを敷いて仲間といっしょにチキンかチャジャンミョンかの出前を待つ情景が目に浮かぶようでした。

あと、もう一つの優秀賞は高岡寿絵さんの

「차례상 배달 할매가 계셨다면 절대 회초리」

（供え物の出前　お祖母さんがいらしゃったら　絶対ムチ）

元旦や秋夕などの차례상の供え物は伝統的に真心を込めて供えてきたもので、それを手間がかかると出前を取るこのご時世、お祖母さんが生きていたら嘆いていただろうと詠いました。ここで「할매」は「할머니」の方言で、字数をそろえるにも情感を表すにも効果があったと思います。

以上の最優秀作、優秀作はもちろんのこと、佳作や入選の作品だけでなく、他にもりっぱな作品が多かったです。改めて皆さんの健闘ぶりにエールを送りたいと思います。

昨年の審査評でも触れましたが、一つ残念なことは今年も字余りや字足らずの作品が多く、せっかくのいい内容なのに勿体ないなと思うことが多々ありました。

「画龍点睛」ではなくても、「点」が一つ足りなかったり、多かったりして、龍がとん挫してしまうよう気がしてなりません。そこで、漢字語を固有語に、固有語を漢字語に、または、助詞を取ったりつけたり、副詞をつけてみたりして字数を整えてみると、リズム感や安定感をもたらすことができます。

もちろんこういった調整をするには、学習が進まなければ難しいところもあるかと思いますが、工夫次第ではもっといい作品ができるはずです。

「守・破・離」

剣道や茶道などで、修業における物事を学ぶ時の姿勢を示したものですが、「韓国語俳句・川柳」にも当てはまると思います。まだ、「韓国語俳句・川柳」の歴史やレベルはよちよち歩きの状態で、今は「守」の段階ではないかと思います。ハングルの 5・7・5 のリズムは、韓国人の耳にも親しみが持てる馴染み深い音の並びです。世界で日本と同じく 5・7・5 で表現できるのは韓国語だけじゃないでしょうか !?

作者の伝えたい気持ちや情景を浮かび上がらせ、インパクトのある句にするためにも、まずは 5・7・5 の基本を守っていきましょう。

また、将来は「破」や「離」の作品が出るのも楽しみにしています。

＜作品の日本語訳は筆者＞

作品集

最優秀賞

韓国語講師のユウウツと夢想

舟橋 寛延〔岐阜県〕

私は市民向けの韓国語講座で講師をしている。大好きな韓国語を教えると同時に言葉だけではなく韓国のことも知って欲しいと常に思っている。

ある日の初級クラスで、「문＝扉、戸」の単語を教えている最中、生徒の理解を促すために、

「この문は、판문점（板門店）の문ですよ！」

と補足したのだが、予想外なことに生徒たちの顔には「？」マークが浮かぶばかりで無反応ではないか！

「念のために訊きますけど『板門店』って地名はさすがに知っていますよね？」

と問うと、7名の生徒全てが知らなかった！

生徒の年代は30代から60代と幅広いのだが、誰一人「板門店」という地名を知らないとは思いもよらなかったためしばし言葉を失ってしまった。

しかし、そもそも朝鮮戦争の休戦協定が結ばれた場所、板門店を知らないこと自体に罪はないのかも、と考え直した。知らないことを責め立てた瞬間、コミュニケーションの回路は閉じてしまう。

せっかく韓国語を学び始め、韓国を知ろうとする生徒の出鼻をくじいては良くない…いや、でもこれぐらいは知っておいて欲しい‥。教壇で立ち往生する瞬間である。これすなわち韓国語講師のユウウツ。

しかし、私には夢がある。まだ形はおぼろげではあるから夢想と言ったほうが良いかも知れない。それは誰もが自由に通行できる板門店。境界が取り払われた「元軍事境界線」を散策することだ。

38度線を境界とした今の状態が永遠に続くはずがない。必ずその日は来るだろう。そのためには南北両政府の努力はもとより、周辺の国々の協力が必須であろう。国家だけが主人公だろうか？そうではないはずだ。各国の市民社会における理解と支持が下支えしてこそ平和的、民主的な統一がなされるだろうし、そうでなければいけないと思う。

市民社会の理解と支持のためには、市民同士の直背的な交流、対話が必要だ。交流、対話のためには言語習得が欠かせない！

だから韓国語講師の私は今日も「해요체ヨ体」の作り方を声を張り上げ教えている。一つひとつの語彙を身に着け、日本人が直接韓国人と触れ合う機会が何より大切だからだ。

日々の平凡な授業のその先。いつか来る未来では、平和になった韓半島、東アジアが実現していることを夢想しながら。ユウウツに負けずに。

想像の羽を高々と羽ばたかせて数十年？先の世界を夢見てみよう。

すでに朝鮮戦争は終結し、韓半島はもはや分断国家ではない。民族を引き裂いていた38度線はもはや存在しない。韓国人はもちろん日本からの観光客も自由に半島全体を行き来できる。

ここは板門店だ。新しくできた朝鮮戦争の歴史博物館の前で私は引率してきた昔の生徒に語るだろう。

「そういえば、皆さん、板門店も知らなかったですね」

さて、生徒たちはどんな表情を浮かべるだろうか？

優秀賞
ラブレター

今 未依那〔大東文化大学〕

大好きなあなた、韓国へ

あなたへ手紙を書くのは初めてだから、何から書いたらいいのかわからないけど、どうしてもあなたに伝えたいことがあるから、手紙書くね。

あなたのこと好きになったのは多分、小学3年生か4年生だったと思う。少女時代とか東方神起とかKPOPがすごく日本でブームになった頃だった。ミュージックステーションっていう音楽番組で、Mr. Taxiを披露している少女時代に衝撃を受けたの今でも覚えているよ。それから、アルバムを買って毎日のように少女時代の動画を見ていた。何年かして、一度KPOPから離れたけど、またBTSが世界で大ヒットして、また、日本にKPOPブームが来てからどっぷりとあなたにハマった。毎日いろんなKPOPを聞いているうちに、あなたの文化に自然と触れるようになって、あなたについて勉強するようになった。これが、好きになったきっかけ。勉強するようになって、韓国の先輩後輩関係の義理堅さだったり、親子関係の愛情の深さだったり、それに、「ご飯食べた？」って聞くとかとっても魅力的な文化が大好き。

でも、少し前から気になっていることあるんだ。あなたのことニュースで見ることが多いけれど、良いニュースではないの。長い間喧嘩が続いていて、話し合いがうまくいってないみたい。歴史的な問題で、沢山の人の人生とか思いとか複雑に絡み合っていて、簡単ではないね。でも、そろそろお互いに歩み寄ってみない？私その手伝いをしたいと思っている。あなたの思いを私の国に伝える通訳の仕事をしたいと思う。何年かかるかわからないけど。大好きなあなたと私の国が喧嘩しているのは悲しいよ。でも、私は近い将来力になるよ。平和って、全く喧嘩しないことではないと思うし、当たり前なことではないことは十分理解しているよ。最近は私たちじゃなくて、ある国とある国が大喧嘩をしていて、苦労している人が沢山いるよね。力で平和は生まれないことが、これでわかったと思う。

私はしっかり話し合って解決するのが正解だと思う。せっかく素敵な文化を持っているあなたと私の国、喧嘩はしても平和でいよう。近い将来、仲直りしよう。私はその力になれるよう頑張るね。私と出会ってくれてありがとう。ご飯たくさん食べて元気でいてね。

優秀賞

私が好きな韓国コンテンツ

熊野 紗綾〔千葉県〕

韓国文学が好きだ。
ひとつの国の文学が好きだなんて、対象が大きすぎるのではないか、と自分でも思う。
韓国文学と一口に言っても千差万別で、書いている作家が違えばもちろん、書かれている内容もその文体も、それぞれ別々のものになるのに、それでも韓国文学が好きだといえる。
どのジャンルの小説を読んでも、どの作家のどの小説を読んでも、そのどれもに傷や疲れにそっと寄り添ってくれる言葉があり、美しく切なくやるせ無い言葉がある。私が惹かれるのは、そんな言葉の数々だ。

パク・ミンギュの『亡き王女のためのパヴァーヌ』『三美スーパースターズ最後のファンクラブ』は、自分が選んだのではなく、生まれた時から放り込まれている戦いの中で疲れ傷ついている人々を書いていた。そんな人々を見て、私も知らず知らずのうちに傷を抱えて、疲弊していたことに気付かされた。
チェ・ウニョンの『ショウコの微笑み』は、やるせなくどこにも行き場のないような苦しみを、言葉にしてくれていた。読んでいて辛くもなるけど、そういう言葉が沁み入ってきて私の行き場のなかった気持ちと共鳴しているようだった。
ハン・ガンの『ギリシャ語の時間』『すべての、白いものたちの』は、それ以外はなにも混じることができない、自己憐憫や美談や教訓も何も混ざらない、ただそれだけの悲しみや痛みを書いていた。その純度の高い悲しみや痛みに胸を突かれた。

韓国文学にある言葉は、自分でも気付いていなかった自分の傷や悲しみや疲れに気付かせてくれるし、普段誰にも話せないような隠しておきたい感情や、誰かに話したからってどうにもならない、ただ相手を困らせるだけの感情を慎重にしまっている場所まで、すーっと入り込んでくる。

そんなふうに、韓国文学にしか触れてもらえない心の領域がある。
触れてもらえたからといって、簡単に傷が癒えるわけではない。うわべだけを簡単になぞってそれで終わるような、それで救われるようなものではないからだ。
でも自分が傷ついていたこと、疲れていたことを知るだけでいい。傷ついてもよかったのだと、疲れていいことなのだと教えてくれるだけでいい。

韓国文学は、どこか遠くにいる会ったこともない友達のようだと思う。
日常が重ならず、会ったことのない人、これからも会うこともないだろう人にだけいえる気持ちがあって、それを遠くにいる人と密かに交わし合う、そんな距離感と暖かさが心地いい。

私にとって韓国文学は傷や疲れや、悲しみをよく知っていて、美しく、思い出すと少し切なくもなる、そんな友達のような存在だ。

佳作
ハングル

長谷川 萌乃〔鳥取県立境高等学校〕

私が好きな韓国文化は「韓国語」です。韓国にはどのような文化があり、自分はその中でも何が好きかを考えたとき、一番初めに浮かんだのが「韓国語」でした。私が思う「韓国語のここが好き」というポイントは、大きく分けて２つあります。

１つ目は、韓国語を表す文字、「ハングル」です。ハンには偉大な、グルには文字と言う意味があり、他の言語と違って文字が自然にできたのではなく、世宗大王によって体系的に作られて公布された文字です。私がハングルに接したのは、高校に入学し、韓国語の授業を選択したのがきっかけでした。初めは図形のように見えたけれど、習ってみると漢字よりも書くのが簡単で、形も可愛く見えてきました。私の一番のお気に入りの文字は「ㅍ」です。自分の名前にも入っている文字で愛着がわきます。

２つ目は、韓国語の「発音」です。日本語と発音が似ているものも多くありますが、日本語にはない発音もたくさんあります。私は高校二年生の冬に発音の壁に突き当たりました。「話してみよう韓国語」という大会の練習をしながら、日本語にはない発音に苦労し、何度も挫折しそうになりました。平音、濃音、激音の区別や口の開き方の違いが特に難しいと感じました。それでも何度も練習を重ねながら、少しずつ上達してくるのを実感し嬉しかったのとともに、この難しい発音も、韓国語の魅力の一つだと思いました。私が好きな単語、「복숭아」は、パッチムがあり発音するのが難しいですが、これが言えたとき嬉しかったのを今でも覚えています。そしてこの語は私が韓国語を習い始めてすぐの頃に覚えた単語なので、印象深いです。

改めて韓国語について考えてみると、言語だけでなく多くの韓国文化について魅力をたくさん感じられます。その文化の一部である韓国語について、次は韓国語の歴史について調べてみたいです。将来韓国に関係する仕事をしたいと考えているので、語学そのものだけでなく、その背景にある文化や歴史、人々の生活についても学び、今後も韓国語学習に励んでいきたいと思います。

佳作

私が考える韓日交流

小川 知子〔広島県〕

2001 年、日韓関係は急速に冷え込んでいた。日本のある出版社が、日本の植民地支配を歪める教科書を出し、それが許可されたのだ。植民地支配を正当化する蛮行とも言える行いだった。この問題は、韓国国内の世論の反発を招いた。

ちょうどその年、私は韓国梨花女子大学に 1 年間の予定で留学していた。韓国のあちらこちらで日本の歴史教科書を批判する展示会が行われ、道端でも日本を糾弾する風船を配ろうとする学生がいた。ニュースの多くが日本批判だった。そのため、当時の留学生は非常に居心地の悪い思いをした、と言いたいところだが、実のところ、私は留学中ほとんど辛い思いをすることがなかった。それは韓国の人々がいつも私たちを守り、支えてくれたからだ。先生は、授業中、いつも異国の地で学ぶ私たちのことを気遣ってくれたし、辛い思いをしたときは手を握って励ましてくれた。そして、韓国語を学ぶ私たちの存在がうれしいと言ってくれた。韓日関係を憂慮する私に「大丈夫、とことんまで落ちたら後は上がっていくしかないんだから」と笑顔で言ってくれた。「ケンチャナヨ」とほほ笑む先生の笑顔は女神のようだった。

そして、何より、韓国人の親友との出会いは私にとって宝物のような経験だった。ある日私は、ある韓国人に韓日関係について問い詰められた。すると彼女は顔色を変え、「日本人だからと言って、みな同じ考えではない。この子は韓日の歴史をきちんと勉強している」と言って必死でかばってくれた。そして、その後、泣きながら「辛い思いをさせてごめん」と謝ってくれた。彼女とは韓日関係を巡り、口げんかになったこともあった。それでも、最後に、彼女は私のことを「一人の日本人」ではなく友人として守ってくれた。この経験があるから、私は絶対に韓国のことを嫌いにならないし、韓国が大好きでいられる。人間にとって必要なのは、紛れもなく「愛」を持ち、相手と向き合うことだと韓国の人々が教えてくれた。

それから時がたち、紆余曲折を経て、私は学校の先生になった。昨年、ひとつのクラブをつくった。「多文化部」。韓国語を学び、韓国の人と交流するクラブだ。生徒は目を輝かせて韓国語を学び、オンラインで韓国の若者と交流している。いまだに韓日関係は問題が続いている。だけれど、両国の生徒は真摯に学び、対話をしている。お互いを大切に思い、こんなに楽しく交流をしている彼らだもの、きっと乗り越えられる。この 20 年、日本と韓国はぐっと近くなった。それは紛れもなく、愛と文化がお互いを繋いだのだ。だから、大丈夫。先生が言った「ケンチャナヨ」が心に響く。韓日交流はきっとケンチャナヨだ。私はこれからも若者を育てながら、韓国の人からもらった愛のバトンを次世代につないでいく。それが私の使命だ。

佳作

韓国を愛する広島の子が伝えたい平和のメッセージ
ー大邱へ、韓国へ、世界へー

小川 茉莉〔広島県〕

北風と太陽のどちらが強いのかを言い争い、旅人のコートを脱がす賭けをする。 北風は荒々しく風を吹いたが、太陽は旅人に近づいて暖かい日差しを浴びせた。その結果、暑くなった旅人はコートを脱ぐことになる。このイソップ寓話の教訓とは何だろうか。

平和の象徴である広島で生まれ育った私は、今年勃発した戦争をきっかけに平和の重要性と韓日関係について考えてみた。韓日関係は「近くて遠い国」と描写されながらも、観光や文化交流などの交流は着実に続いており、互いを尊重し合っている。故郷である広島は大邱広域市と姉妹都市だ。私は高校時代、学校の年次行事として日韓国際交流に参加したことがあった。 大邱の高校生たちと互いの地域を訪問し、故郷の観光名所と特産物を紹介した。

広島に来た大邱の友達をどこに案内するか悩んだ末、私は広島平和記念公園に連れて行くことに決めた。 被爆当時の惨状を記憶し、世界の平和を祈る意味で造成されたこの公園には、原爆で亡くなった韓国人 2 万人の犠牲者を追悼する慰霊碑も祀られている。 この慰霊碑は公園の外にあったが、1999 年になってようやく公園内に移転された。 慰霊碑に書かれている文を読んだ大邱の友人たちは、「韓国人犠牲者がこんなに多いとは知らなかった。 茉莉の先祖の方たちも本当に大変だっただろうね。このような交流がなかったら一生知らずに生きていただろう。」と言ってくれた。被爆者の中に韓国人がいることを知っている人は、韓国はもちろん、日本の中でも数少ない。日韓国際交流をするまで広島出身の私さえ知らなかった事実が多々あり、このような交流を通して知ることができたのはとても幸いだ。

学校を通じた交流や個人での交流が増えて互いを理解するようになれば、相手国に対する一方的な思い込みではなく、相手の心を理解する方法を自然に学ぶことができる。この交流で出会って 6 年という歳月が過ぎたが、私たちの友情関係は今も続いている。 私たちのような小さな出会いが集まれば、それが一つの光になってもっと明るい未来が切り開かれるだろう。

広島の子である私が伝えたい平和のメッセージ。それは『北風と太陽』の太陽のように「強圧的」ではなく「共感」の心構えで、「暴力」ではなく「非暴力」の姿勢で明るい未来を築くことだ。 北風のように力ずくで相手を変えようとするのではなく、相手が変わるようにそっと導く力が大切だと考える。自分の利益を得ようと急激な変化を求めるより、文化交流を増やしてゆっくり前に進んでほしい。日韓だけでなく、戦争、紛争によって苦しんでいる人と、また全世界の人々と一日でも早く一緒に笑える日が来ることを心から願っている。

佳作

私たちに染み込んでいくK

高田 真歩〔兵庫県〕

「広い野原、東の果てに昔話をささやく小川がめぐりゆき、まだらの雄牛が日暮れがたのものさびしげな黄金色の鳴き声をあげる所、ーその地を夢にだとて忘れることなど。」

1節1節の描写がパノラマのように鮮明に広がるこの詩は、故・鄭芝溶の『郷愁』の最初の部分である。この詩は韓国人の情緒、特に故郷を離れたことがある人の胸にはじんと染み込んでくるらしい。1927年に発表された作品が、1989年、大衆音楽として生まれ変わった時にも愛された理由も、これと無関係ではないだろう。人々は誰しも思い出をかみしめながら生き、故郷と離れて暮らす人々は、このような歌を聴いて「郷愁」にふける。

最近ホットなK文化の一つにKシティポップを挙げることができる。70,80年代に作られた歌を、独創的なシティポップとして再解釈し、国内外の音楽ファンに愛されている。キム・ヒョンチョルの『春川行きの汽車』や、光と塩の『シャンプーの妖精』のような80,90年代の歌が現在のアイドルにより再解釈される。

なぜ私たちはKシティポップの魅力に浸るのだろうか。

その理由の一つは、感情を正直に込めた歌詞にあるのではなかろうか。華やかなネオンに囲まれ、心配なんてないように見える人たちも、実は悲しさや寂しさ一つを抱いて生きているという歌詞に共感を覚える人も多い。

新型コロナウイルスがなければ、私は留学生として今頃韓国にいたはずだった。しかし現実は日本で、無我夢中に準備したものが水の泡になった虚しさにやられ、私はある日、電車の中で泣いてしまったこともある。「大丈夫ですか？」のような心配の一言は勿論、人々から視線を向けられることはなかった。傷ついた心を慰めてくれるのは、もはや人ではなく、現実的ながらも「郷愁」を思い浮かばせるKシティポップだ。私は、自分の感情を無理やり否定してしまう性格であるが、Kシティポップを聴いていると、抑え込んでいた感情とも向き合うことができる。

私より上の世代には、原曲が流行った時期にタイムマシーンに乗って戻る気持ちになるという。このようなことが、世代と国境を越え私たちをますますK文化に浸らせるのではないだろうか。

100年前、鄭芝溶詩人は日本で留学をしながら「그곳이 참하 꿈엔들 잊힐 리야（その地を夢にだとて忘れることなど）」を何百回繰りかえしながら耐え抜いただろう。それと比べれば私なんて大変とは言えない。『언제나 우리 웃을 수 있는 아름다운 얘기들을 만들어 가요～（いつでも私たち、笑えるような美しい話を作っていこう～）』という『보랏빛 향기（紫色の香り）』の歌詞のように、私も私の美しいストーリーを作っていけるように全力で走ろうと思う。私はKミョドゥルギ（K文化にスミョドゥルギ：K文化に染み込む）生活で活力を得て、日本と韓国を繋ぐ頼もしい石橋に生まれ変わりたい。真歩！頑張るんだ！

最優秀賞

反日運動のかわりに私が韓国で見たもの

小島 奈那子〔長崎県〕

2019 年 9 月、私は韓国を訪れた。前年の秋に、韓国の大法院が日本企業に元徴用工の方への賠償を命じる判決を下したことをきっかけに、日韓関係は悪化の一途を辿っていた。また、その年の 7 月には、日本政府が韓国をホワイト国から除外すると発表したことで、日本不買運動が広がっていた。日本のテレビに映し出される韓国では、韓国の人々は皆日本のことを憎んでいるように見えた。メディアが連日報じている反日運動が果たして本当に韓国で起きていることなのか、私は知りたくて、父とともに韓国へ渡った。

家の玄関を出てから仁川空港に降り立つまで、およそ 4 時間。明らかに旅行者の格好をして、父と二人日本語で話していれば、私たちが日本人であることはすぐにわかるはず。そうなれば、もしあのテレビで見た韓国が本当の韓国なのだとしたら、何か起きたとしても不思議ではないのではないか。仁川空港からソウル市内に向かう空港鉄道の中で、私はそんなことを思っていた。

しかし、4 泊 5 日にわたる滞在中、日本人だという理由で嫌な体験をすることはおろか、テレビで見たような反日の集会も、NO JAPAN のチラシも、一度も目にすることはなかった。そのかわりに私が見たのは、次のようなものだった。

清渓川のほとりを歩けば、白鷺が足先だけ水につけて悠々と歩いているのが見えた。写真を撮ろうと立ち止まると、私が立っている川の反対側に、同じようにその一羽の鷺を見つめる女性の姿があった。美しい生き物を見て足を止めるのは皆同じなのだ、と思った。

北村韓屋村を訪れた日は、とても天気がよく空気が澄んでいた。夕方まで歩き回り、夕陽に照らされて白壁の美しさが際立つ韓屋の合間から、遠くに N ソウルタワーがくっきり見えたことを覚えている。

景福宮と昌徳宮も訪れた。自然にあふれた昌徳宮の中をゆったりと散策するのは心地よかった。庭園の中の小さな田んぼでは、黄金色に実った稲穂が垂れていて、その隣では手作りのかかしが稲の成長を見守っていた。すぐそばを、真っ赤な赤とんぼが飛んでいた。

夜の街を歩き、あるおじさんの屋台でホットクを買った。手早く紙コップに入れたホットクを手渡してくれながら、日本から来たの？一度行ったことあるよ、と言ってくれたおじさん。熱々のホットクを食べながら屋台の前で写真を撮ると、後ろでばっちりポーズを決めて、写真に入ってくれていた。

テレビで見たような反日感情にあふれる韓国は、少なくとも私の目には映らなかった。そのかわりに私は、美しい自然やあたたかい心にあふれた韓国を見た。でも、それでよかった、で終わらせてはいけないとも思った。大韓民国歴史博物館では、皇民化政策の下配られた、毎朝皇居へ向かってお辞儀をすることを呼びかけるチラシや、「皇国臣民ノ誓詞」を見た。これまでの歴史を受け止めて、韓国との関係をよりよいものにしていくために私に何ができるのか。そんなことを考えた韓国旅行だった。

優秀賞

釜山旅行、そして母の記憶

斉藤 穂高〔神戸大学大学院〕

いまだにふと思い出す遠い昔の記憶がある。
小学生の頃、母が厨房でキムチを漬ける音。漂ってくる香りのことだ。
私の母の生まれ育った町は釜山の海雲台だった。
父と結婚したことをきっかけに祖国を離れ、遠い大阪で細々と自慢のキムチを売っていた。
そんな母の作るキムチは磯の残り香が仄かにする釜山仕込みでもあった。
「明日も学校でしょ。もう寝なさいよ。」
そういって私を寝かしつける夜更けは、母の仕事が始まる合図でもあった。
寝室に向かって少し経つと、厨房の方向から慌ただしい雰囲気が伝わってくる。
ザクザクザクザクと白菜を切る小気味良い音。
何かを勢いよく混ぜる音。何かをすり潰す音。
ザザーッと勢いよく流れる流水。
しばらくすると漂う辛味、塩味、大蒜とが複雑に絡まった独特の磯のような香り。
寝室にいる私には、母の仕込みの様子を直接見ていない。
しかしドアの隙間からでも手に取るようにはっきりとその仕込みの様子がわかるのである。
私は厨房から漂ってくる「釜山の趣き」に囲まれたことで、なぜか安心して眠りについたものであった。
そんな小学生時代の遠い昔の記憶からもう既に十数年。
私も気がつけば大学生になり、一人で旅に繰り出せる年齢になった。
そこで 2016 年の年の瀬に、初めて釜山を訪れてみることにした。
あの思い出の「釜山の趣き」をもう一度確かめたくて。
空港のロビーを抜けたその瞬間。
初めて訪れた釜山は予想通り、街中に思い出の「音と香り」がいっぱい漂っていた。
たまたま寄った海雲台シジャンでは、アジュマの威勢のいい声に導かれ、とあるシッタンに入った。
「ソジュハンジャン、ジュセヨ。」
たどたどしい韓国語で焼酎を注文すると「待ってました」と言わんばかりに出されるバンチャン。
進むお酒と釜山の喧騒に酔いしれ、昂揚する意識の中、ふと聞こえて来る「ザクザクザク」、「トントントントン」と料理をする音。
そしてキムチを頬張ると口の中で広がる磯の香りに子供の記憶がしっかりと呼び起こされた。
「これだ、これが子供の頃に感じていた釜山なのだ。」と。
そんなささやかな旅の喜びに浸りながら、まだ大阪で元気に生きる母のことを思い出したものである。
コロナ禍で次またいつ、「釜山の趣き」に浸れるかはわからない。
しかし、もうすぐそこだろう。
またあの音や匂いに浸れる日は。

優秀賞

安東での温かなもてなし

田中 俊哉〔長野県〕

目を閉じて、今までの韓国旅行を振り返るとき、そこに浮かんでくるのは韓国で出会った多くの人々の顔です。思い出に残るその多くが「偶然」出会った人たちです。韓国では「인연」という言葉がありますが、本当にそれを感じさせるような人たちとの出会いが、私の韓国旅行にもたくさん残っています。

2001年の夏。度々訪れていたソウルから離れて、地方の旅行を探していたところ、「安東」を紹介するページに偶然ぶつかりました。絶壁に囲まれひっそりとしたたたずまいが写真からも伝わってきます。「よし、ここに行こう！」とすぐに決心しました。しかし、そこからが問題です。どう行けばいいのか、現地では何を頼ればいいのか、今のように地方旅行が当たり前ではない頃でしたので、いろいろ調べてみたものの行き詰ってしまいました。

そこで思いついたのが、「現地の友達をつくってしまえ」ということでした。ネットで安東市を紹介する小さなホームページを見つけ、その管理者に思い切ってメールを送ってみたのです。つたない韓国語で、安東に行きたいこと、初めて行くこと、名所などを紹介してほしいことなどを書き綴りました。するとすぐに返信があり「日程を教えてください。後は釜山まで来られるように準備してください。そこからは全部私が手配します。」との内容。あまりの内容にびっくりするやら、うれしいやら。お互いの顔写真を交換して、しばらくメールの交換をしながらだんだんと親しくなっていきました。相手は安東出身の柳さん。安東のことを多くの人に知ってほしいと個人でホームページを作っているとのことでした。
そしていよいよ訪韓のとき。夫婦二人でのドキドキ韓国旅行の始まりです。

安東のバスターミナルでは、写真通りのさわやかな笑顔の柳さんが待っていてくれました。メールでやりとりしていたものの、直接会話を交わすのは緊張しつつも心弾むうれしい時間でした。柳さんは、自分の車に私たちを乗せ、屏山書院や映画のロケ地、そして私が行きたかった「河回村」へと案内してくれました。天気は快晴、屏山書院、河回村の素晴らしい景色、観覧者も巻き込んで踊りまくった河回村の仮面劇公演、黄牛や干しダラの料理等、想像以上の体験に、私たち夫婦は時間を忘れて旅行を楽しむことができました。

しかし、旅行はもちろん楽しかったのですが、それより何より、この旅行で心に残ったのは、「柳さん」との出会いです。私が突然思い立って送った一通のメールから始まったこの出会い。最終日は、自宅に招待してくれて奥さんも交えて4人での語らいの時。安東焼酎を味わいながら、夜が更けるまで語り合ったことは、この旅行最高の思い出となりました。

観光地や食ばかりに目が行きやすい昨今の韓国旅行ですが、現地での「人」との交流こそ旅行の醍醐味といえるのではないかと、この旅行を振り返って思います。

佳作

また行きたい国は…?

地藤 智湧〔香川県立高瀬高等学校〕

仁川空港に到着し、所定の入国手続きを済ませる。広大な空港の中には多数の飲食店、土産店が立ち並ぶ。本当なら少し空港内を探索したいところだが、予定を詰めすぎたおかげでそのような時間はない。私たちはソウル市内へ向かうべく、「空港鉄道」へと向かった。

韓国には仁川空港とソウル駅を約1時間で結ぶ「空港鉄道」がある。私たちはその中の「各駅停車」を選び、ホームへと入場する。外国の鉄道で素晴らしいのはホームが一つの部屋のようになっていて、転落事故を起こすことなんてほぼあり得ない仕組みになっていることだ。

ところで、私は下肢障がいを持っているため、長時間立っていることが厳しい。しかし、過去に行った国の地下鉄はどこも混んでおり、車内では立っていることがほとんどであった。

やがて列車がやってくる。乗車するとやはり満席であり、私は立つことを余儀なくされた。しかし、3分ぐらい立った時。急に、席に座っていた男性が立ち上がって、僕の目を見て席を指差す。「座ってください」と言っているのだろうか。いきなり譲られて驚いた私は 「감…감사합니다.」と片言の韓国語でお礼を伝え、席へと座った。外国の鉄道で席を譲ってくださったのは韓国が初めてである。おかげで快適に、ソウル駅へと到着することができた。純粋に嬉しかった。

ソウル駅に到着した後、まずはホテルを目指さなくてはならない。私たちは地下鉄へと乗り換えた。障がい者用のゲートがかなり大きいなぁ…と思いつつホームへ降りる。地下鉄は空港鉄道より本数が多く、ホームで待つ時間はそう長くはない。その代わり空港鉄道より車内は混んでいた。

しかし、5分ぐらい立った時。

またもや韓国の方が席を空けてくださり、私を手招く。

「감사합니다！」

と空港鉄道の時よりもしっかりと返事をした後、私は席へと座った。

私たちの韓国旅行は4日間の行程であり、移動はほぼ地下鉄だった。地下鉄を使えばほとんどの観光地に行くことができるから。

よって私たちは数十回は地下鉄に乗っていたと思う。

では、その中で全て立ちっぱなしだったのは何回であったと思うだろうか。

私が覚えている限り、答えは0回。全ての地下鉄移動において席が空いていたか、席を譲ってくださったのである。

この心配りのおかげで、ストレスをほぼ感じることなく観光を楽しむことができたことは言うまでもないだろう。

我が家には、1年に1回海外旅行をするという伝統があった。韓国に行った1年後に新型コロナウイルスが出現する。そこで私たちの伝統は途切れてしまった。新型コロナウイルス出現前最後の海外旅行となった韓国で、私は現地の方々の暖かさに気づくことができた。

「コロナが終息したらもう一度行きたい国はどこ？」

そう両親が聞いてくることがある。私はすぐに「韓国！」と答える。行きたい場所が、たくさん残っているから。

佳作

韓国旅行で経験した親切心以上のもの

林 政憲〔大阪府〕

コロナ禍のなかで、何度も韓国旅行を夢見た。しかし、残念だが未だ実現していない。以前は、定年退職後の夫婦の楽しみの一つとして何度も訪れたのだが。

地下鉄で出会った女学生は、日本語を勉強中だと笑顔で話しかけてくれた。そして互いに好きな韓国の映画俳優の名前を出し合い、あっという間に空港からソウル市内に入った。もっと時間があればよいのに、と思った。

壮年の男性は、駅の電子ロッカーの扱いに不慣れな私たちに見かねて手振りで操作など教えてくれ、出勤中だったが最後まで見届けてくれた。水原では、妻のカバンが開いているのを三人組のウォーキング仲間から教えてもらい、民俗村では私たちが珍しそうに見ていたご当地のお菓子を分けてもらった。地下鉄の乗り換えで迷っていると、高齢の男性がホームまで付いてきてくれ、無事目的地に着いて安心した。韓国の儒教は古典的倫理観と言われるが、韓国旅行中に老若男女から親切にしてもらったのだから、長く世代間継承された高いモラルと言えるのではないだろうか。親切心とは違うもっと深い何かを感じる。逆に私は日本への来訪者に同じように接したことがあるだろうか。私は大阪の地下鉄で座席を譲ってもらったが、それは韓国からの若い青年だったのだ。

ところで、韓国の旅行を重ねるなかで近代の韓日の交流を知りたいと朝鮮通信使にかかわる本を読みはじめ、雨森芳洲（1668～1755年）を知ることになった。日本の江戸時代中期の儒学者で朝鮮との外交に活躍した日本人で、当時は筆談での外交の時代だったが、芳洲は「ことばを知らで如何（いか）に善隣ぞや」と釜山に三年間留学して言葉を習得したそうだ。
私もコロナ禍のなか、今度行く時は少しくらい話したいと韓国語を学び始めた。今までの韓国旅行では、多くの親切を受けた時に返すわずかな言葉すら知らなかったのだから。そんなある日、偶然にも芳洲の子孫にあたる人に出会った（珍しい名字なのですぐに分かった）。再び芳洲に関心が起こり図書館に行き調べたのだが、芳洲は「互いに欺（あざむ）かず争（あらそ）わず真実を以（も）って交わる」という、「誠信外交」の秘訣を著しているのだった。

私の住まいは、韓国の人々が多く住む大阪の鶴橋やコリアンタウンに近い。自転車に乗って「ミニ韓国旅行」に頻繁に行くのだが、毎回新しい食べ物やK-POPに出あえる。平日でも若者がいっぱい、しかしこの地が歴史上どのような立ち位置にあったのかも知る必要はあると思う。

今後行く「ミニ韓国旅行」も、近い将来のリアル韓国旅行も、芳洲の目をもって訪れたい。

佳作

日本人学生、ソウルで道案内

今西 はな〔グリネル大学〕

ソウル駅から留学先のヨンセ大学に戻ろうとしていた水曜日の午後６時。地下鉄の改札を通るとそこは帰宅中の人でごった返していた。その中に一人、ポツン、と立ち止まってきょろきょろしているおばあさんがいた。「大丈夫かな？」と思った瞬間目が合った。そしておばあさんは私に手を振って「すいません、すいません」と人をかき分けながらこちらに歩いてきた。そして私に尋ねた。「お嬢さん、ソウル駅に行くにはこの改札を通るので大丈夫かしら？」

一瞬で頭が白くなった。

不安だった。日本人だとバレたらどうしようという不安。これは韓国が好きだからこその不安だ。

私は韓国の正直で優しい人と文化が大好きだ。小学生の時にハングルがきれいだと思い韓国語の勉強を始め、今も続けている。スマホの音楽プレイリストは韓国の 70 年代の曲で埋め尽くされている。とにかく韓国が好きだ。だからこそ、より一層韓国人に嫌われたくない。反日運動が起こるのを見ると悲しいし、痛い。

この前日、私は戦争記念博物館で日本が韓国に対して大きな過ちを犯していた歴史を改めて学んだ。さらに、その帰り道に友達と日本語で話しながらバスに乗ったら運転手に「降りて次のバスに乗りなさい」と言われたばかりだった。車内はガラガラだったから降ろされた理由は反日感情しか思い浮かばなかった。しかし反日感情の大元は日本側にあるからやるせない気持ちで一杯だった。

おばあさんと目を合わせるのが怖くて彼女の赤いカーディガンの編み目を目でたどった。ソウル駅への道案内をする韓国語の実力は十分にあるが、日本なまりは隠せない。おばあさんの歳だったら日本が嫌いでもおかしくない。おばあさんに嫌われるのが怖くてしばらく立ち止まっていた。

でもその不安を反芻しながらも思った。立ち止まることは怖い結果から自分を守る方法ではあるが、同時に良い方向へ進むことも妨げる。立ち止まっていては良い方向に絶対進めない。嫌な顔をされるかもしれないが、今はできるだけのマナーで道案内をするのが最善の選択だ。

「この改札を出て、目の前のエスカレーターを登るとソウル駅がありますよ。」

そう言っておばあさんの顔に視線を移すとおばあさんは「ありがとう」と微笑んで改札に向かっていった。そして、わざわざ振り返って、私にまた手を振ってくれた。

留学を終え韓国をより好きになった今、心の奥底から韓日関係の改善を願っている。そして私は自分の大好きな二つの国の関係改善に直接貢献したい。現在私はアメリカに学部留学をし、大学で国際関係を専攻し、語学も続け、直接外交に携われる日のために準備をし続けている。ただ現実的には私が努力しても自分の時代で関係は改善どころか更に冷え込むかもしれない。それでも努力が仇になるのが怖いからと言って立ち止まっていては何も得られない。だから心を決めて毎日前へ前へと勉強をする。おばあさんの笑顔を見たあの日を思い出しながら。

佳作

「持ちましょうか？」ではなく「お持ちします！」

中川 真衣〔大阪府〕

人の荷物を持ってあげるのは思ったより簡単ではない。容易ではないため、時には一つのマーケティング戦略として成り立つ。 韓国忠清南道唐津のある伝統市場の企画として、お客さんが買い物をしている間、買い物済みの荷物を代わりに持つと宣伝した。「荷物持ちの代行」という大型マートにないサービスで客を集め、地域経済に活力を吹き込むという戦略だ。あるところでは、お客さんを獲得するための一つの戦略になりうるが、日常で偶然出会う人に自分の荷物を持ってもらうという出来事は、誰かにとっては一生忘れられない感謝の気持ちとして記憶される。

これは、2019年3月上旬、コロナウイルスが流行する前に行った韓国旅行の出来事である。2泊3日という短い旅程だったが、韓国の空気を感じたくてソウルに渡った旅行最終日、早朝の飛行機に乗らなければならなかったので、早めにホテルから出た。私と母は荷物とお土産をいっぱい持って急いでいた。「あ、しまった！」地下鉄から降りて地上に上がろうとした時、エレベーターもエスカレーターも見えず、仕方なく階段で重いカバンを持って上がろうとした。ちょうどその時、近くを歩いていた20代後半の好青年が私たちに近づいてきて声をかけてくれた。「위까지 가져가시는 거예요？ 제가 들어드릴게요（上まで持って行かれるんですか？ 私が持ちますよ）」と言って、私たちの返事は聞かず、荷物を一目散に持って上がった。日本では普段あまり見られない光景だ。日本人なら誤解するかもしれない状況だった。あまりにも突然の出来事だったので気が気でなかったし、男性の方も急いでいるようで、とりあえず「감사합니다（ありがとうございます）」と短く挨拶した。その方は「천만에요. 당연한 건데요（どういたしまして。当然のことです）」と言って去っていった。韓国を旅行しながら感じたことは、韓国と日本は何か似ているようで違うということだ。日本なら「大丈夫ですか？手伝いましょうか？」と相手方に許可を求めるだろう。一方、韓国の方々は「私がお持ちします」と言う。人によって感じることは違うだろうが、私はこの表現から温かさを感じる。初めて見る人にも前からの知り合いに接するかのように言い渡すこの表現、いちいち相手の許可を求めずに自ら判断する動きに居心地よさを感じる。目の前に障害物が置かれているように、私たちは自由に行き来できない時期が3年間も続いている。

何か、目的を達成するためではなく、純粋な心から湧き出る「大変な目に遭遇している他人の荷物を持つ」という行為こそ、見返りを求めない韓日友好交流の最高の戦略ではなかろうか。

最優秀賞

데이지 화단

久保 直香〔山口県立山口高等学校〕

“평화” 가 뭘까?

매일 매일 아무 생각도 없이 살아왔으니 이 세상은 평화인 줄 알았다. 전쟁은 77 년 전에 끝났고 이제는 평화로운 세상이 됐다고.

하지만 지금도 세계에서 전쟁이 터져 있다. 지금도 많은 격차가 있다. 지금도 힘든 아이들이 있다. 지금도 평화가 아니다.

내게 “평화” 가 뭘까?

예쁜 꽃을 찾아내는것, 맑은 하늘을 바라보는 것, 별님께 소원을 비는 것, 푹 자는 것, 키가 자라는 것, 학교를 다니는 것, 때로는 뒹굴뒹굴하는 것, 멋진 옷을 입고 친구와 같이 노는 것, 한국어 공부하는 것, 음악 듣고 노래하는 것, 목욕하는 것, 먹고 싶은 것을 먹는 것, 가족과 식사하면서 수다 떠는 것, 생일 축하 받는 것, 어렸을 때 사진 보는 것, 열중하는 일이 있는 것, 꿈을 그리는 것, 응원 받는 것, 아프면 병원에 가서 낫는 것, 혼자가 아니라고 아는 것, 내 편이 있는 것…

일상의 소소한 행복들.

이런 “평” 범한 행복의 데이지 꽃으로 세상의 “화” 단이 가득하게 되면, 그게 “평화” 가 아닌가 싶다.

이 세상 모두가 평화의 데이지를 가질 수 있으면 좋겠다.

말로만 하는 것은 쉽다고, 자신이 할 수 있는 것은 하나도 없다고 느꼈다.

그래도 아직 어린 내게도 할 수 있는 일이 하나 있다.

나는 나를 만나는 사람들 개개인에게 데이지 꽃을 건네는 것 같이, 행복의 웃음을 선사하기로 했다.

그래야 조금씩 조금씩 세상이 달라질 것이다.

이 세상 모두가 웃을 수 있게,

이 세상 모두가 소소한 행복을 느낄 수 있게,

이 세상 모두가 데이지를 가질 수 있게,

이 세상 화단이 데이지로 넘쳐날 때까지…

우리 서로 데이지 꽃을 건네자!

그게 제가 전하고 싶은 평화에 대한 메시지다.

優秀賞

한국어로 알 수 있는 “우리” 의 문화

山岡 美月季〔広島市立舟入高等学校〕

우리동네 , 우리언어 , 우리나라 , 동네도 언어도 나라도 자기만의 것이 아니기 때문에 확실히 “우리” 것입니다 . 이유를 생각하면 이 대명사의 사용법은 자연스럽고 , 일본어로 번역해도 어색함은 없습니다 . 그렇다면 영어로는 어떨까요 ? my town, my language, my country. 이와 같이 영어로는 모두의 것이라도 “우리의” 가 아닌 “나의” 라는 표현이 사용되는 것이 일반적입니다 . 이것을 통해 한국어와 일본어는 영어보다 집단을 주어로 하는 것을 선호하는 경향이 있는 것 을 알 수 있습니다 .

그럼 이번에는 한국어와 일본어를 비교해봅시다 . 우리엄마 , 우리언니 , 우리딸…이렇게 한국어로는 가족을 나타낼 때 “우리” 라는 말를 자주 사용합니다 . 일본어로는 나의 엄마 , 나의 언니 , 나의 딸이라고 표현하는 것이 일반적입니다 . 그도 그럴 것이 어머니는 모두의 어머니가 아니라 나만의 어머니이기 때문입니다 . 분명 형제가 있는 사람에게는 우리 엄마일 수도 있습니다 . 그렇다면 우리 남편이라는 표현은 어떨까요 . 한국은 일부다처제가 아니기 때문에 일반적으로 아내에게는 남편은 “나만” 의 남편입니다 . 일본에서 “우리” 남편이라고 표현하면 오해를 낳을지도 모릅니다 . 이처럼 한국어와 일본어 사이에도 세세한 차이가 있습니다 .

그렇다면 이러한 특징은 무엇에 기인하고 있는 것일까요 ? 실제로 한국의 이웃돕기 정신을 현지에서 느낀 적이 있는 저는 정 (情) 문화의 표현이 아닐까 생각합니다 . 길을 잃은 저에게 말을 걸어주시고 목적지까지 안내해 주셨던것 , 다같이 식사를 함께 나눠먹었던것 , 모든것이 기쁘고 감동이었습니다 .

개인중시의 서양과 집단중시의 한국 , 일본 . 우리의 언어 속에는 공통적으로 집단의식이 나타나고 있습니다 . 일본인이 한국어를 배우기 쉽고 , 한국인이 일본어를 배우기 쉽다는 말을 자주 듣는 것은 이처럼 공통의식을 언어학습을 통해 실감할 수 있기 때문이 아닐까요 . 작은 차이는 있지만 “우리” 라는 말은 우리가 가까운 나라임을 실감하게 해주는 제가 가장 좋아하는 한국어입니다 . 같은 동아시아에 위치한 “우리나라들” 의 상호 이해와 교류가 더욱 촉진되기를 진심으로 바랍니다 .

優秀賞

내가 좋아하는 한국문화

冨樫 舞衣〔鹿島朝日高等学校〕

저는 지금 한국어를 배우고 있습니다. 배우기 시작한지 약 2 년 반이 지났습니다. 처음에는 kpop 이나 한국 드라마를 좋아해서 자막없이 알아듣고 싶어서 한국어를 배우기로 결정했습니다. 그리고 제가 중학교 3 학년때 공부를 시작했습니다. 처음에는 문자 외우는 것조차 힘들었습니다. 하지만 배운 것을 기억하고 사용할 수 있게 되었을 때 기분이 좋고 즐겁습니다. 그리고 고등학교에 들어와서 한국인 선생님과 함께 본격적으로 한국어 수업에 임하고 있습니다. 혼자서 공부하는 것보다 즐거움을 느끼고 매우 충실하게 되어 있습니다.

한국어를 공부하면서 일본어와 비슷한 점이 많다고 느꼈습니다. 예를 들면 도시都市, 가방かばん등 발음이 비슷한 단어들이 많이 있습니다. 그것은 양국가 한자어를 사용하기 때문에 비슷한 단어가 많다는 것을 알고 더 친근감이 생겼습니다. 특히 인상적인 점은 일본에서 자주 쓰이는 경어가 존재한다는 것입니다. 경어는 일본 특유의 문화로 생각했습니다. 이러한 점에서 사람을 공경하고 예의를 중시하는 문화도 공통적이고 매우 훌륭하다고 느꼈습니다.

반면에 문자는 모음과 자음으로 구성되어 있는데 구조가 알파벳과 비슷합니다. 일본 문자인 히라가나와 가타가나, 한자와는 전혀 달라 어느 쪽이든 멋있고 각각 특별한 것이라고 느꼈습니다. 그 밖에도 속담에도 쌍방의 차이가 있습니다. 예를 들면 '좋은 약은 입에 쓰다', '도토리 키재기' 처럼 일본어와 똑같은 의미를 가진 것도 있습니다. 하지만 '가는 말이 고와야 오는 말이 곱다', '작은 고추가 더 맵다' 등 한국 고유의 속담이 다수 있습니다. 특히 인상적인 점은 '고기는 씹어야 맛이고 말은 해야 맛이다' 과 '言わぬが花' 라고 하는 양국 속담입니다. 즉 한국에서는 입에 담는 것을, 일본에서는 입에 담지 않는 것을 미덕으로 삼습니다. 한일 국민성을 나타낸다고도 느꼈습니다. 그래서 저도 속마음을 말하지 못하고 후회하는 일이 많았습니다. 하지만 오마이걸 유아씨의 '저는 꾸며진 제 모습이 싫어요' 라는 말이 저에게 구원을 받았습니다. 그 덕분에 있는 그대로의 나로 있을 수 있게 되었습니다.

머릿속에 없는 감각이라도 만짐으로써 새로운 것을 알 수 있습니다. 또한 언어는 단순한 의사소통이 아니라 사람에게 용기와 감동을 주고 성장시킬 수 있는 귀중한 것입니다. 언어와 문화 등 각 나라마다 다르지만 그 차이를 받아들이고 존중하는 것이 필요합니다. 언어에는 그 나라에서만 낼 수 있는 색이 있습니다. 아무리 비슷한 색깔이라도 미묘하게 다르듯이, 비슷한 문화라도 본질에는 차이가 있고 무수히 있어야 할 색깔이지만 모두 예쁜 것처럼, 그래도 각각의 문화에 우열 따위는 없고 모두 훌륭한 것입니다. 그리고 서로 다른 색을 섞으면 새로운 색이 됩니다. 제가 일본에서 배운 매력적인 부분이나 다른 문화로부터 배운 매력적인 부분을 살려, 자신만의 새로운 색을 만들어 갑니다.

佳作

내가 좋아하는 한국문화

塩崎 由梨果〔神奈川県立神奈川総合高等学校〕

나는 어느날 한국 콘텐츠를 보고 있었다. 그 화면 속에서는 나이 차이가 있는 사람들이 술을 마시면서 건배를 하고 있었다. 그 장면에서 나는 어떤 사실을 깨달았다. 그것이 무엇인가 하면 그것은 나이가 가장 어린 사람이 자신이 가지고 있는 잔을 많은 잔들 중에서 가장 밑으로 내리는 것이었다. 한국에서는 손윗사람을 존경하는 문화가 있다는 것을 어디에선가 들은 적은 있었지만 자세한 것은 몰랐다. 그래서 나는 이러한 행동이 궁금해서 한국의 나이와 관련된 여러 문화를 조사해 보았다. 그 중에서 특히 인상에 남은 두 가지에 대해 이야기 해보도록 하겠다.

그 첫 번째로는 식사와 술에 관한 예의범절이다. 이러한 장면에서의 예의범절은 나이 차이가 나는 여러 사람이 모여서 식사를 할 경우에 지켜야 하는 예의범절이다. 특히, 식사 습관에 관한 예의에서는 “건배할 때에는 윗사람보다 조금 낮춰서 잔을 든다.”, “술잔을 양손으로 든다.” 등이다. 한국에서의 식사 예의에 대해 관심을 가지고 보는 것으로 일본 예의에 관해서도 생각할 수 있는 아주 좋은 기회가 되었다. 나는 아직은 윗사람과 식사를 할 기회가 없지만 사회에 나가면 대부분의 사람들이 나에게는 윗사람이고 인생의 선배이다. 그러기에 이 경험을 계기로 윗사람에게 예의를 지키고 싶다고 생각했다.

두 번째로는 부모를 소중히 여기는 것이다. 물론 어느 나라든지 부모를 소중히 생각하는 것은 당연하겠지만 한국에서는 두드러지게 보인다고 생각했다. 나는 자신의 부모님에 대한 이야기를 할 때 존댓말을 사용하는 것에 놀랐다. 나는 일본에서 자신의 부모님에 대해 이야기를 할 때 경어를 사용하고 있는 것을 별로 들어본 적이 없어서 한국과 일본의 문화에서 느낄 수 있는 큰 차이라고 생각했다. 이건 부모에 대한 존경심이 자연스럽게 태도와 말로 나타나서 멋지다고 생각했다. 가장 가까운 존재라 할지라도 언제나 존경심을 표하는 것은 참으로 중요한 일이라고 생각한다.

일본의 문화에서 자신의 부모님에게 존댓말을 쓰는 것이 별로 없지만 부모에 대한 존경심을 늘 갖도록 노력해야겠다.

이번에 한국에서 나이로 인해 생기는 여러 문화를 조사해 보고 한국만이 아닌 일본의 문화까지 생각할 기회가 되었다. 그리고 할 수 있으면 한국에 가서 여러 사람과 어울리며 스스로 한국 문화를 느끼고 싶다. 막상 한국에 가면 인터넷으로만 찾아보던 것 이상의 놀라움이 기다리고 있을 것 같다. 나는 그때를 위해 지금도 열심히 공부를 하며 여러 지식을 쌓아가고 있다.

佳作

모두의 마음은 한일간을 잇다

長田 睦樹〔島根県立隠岐高等学校〕

나는 독도문제를 안고 있는 오키노시마에 살고 있다. 초등학생부터 독도에 대해 배웠기 때문에 한국이 솔직히 싫었다.

중학생 때 북방영토 연수로 홋카이도에 가서, 그 지역 사람들이 러시아인과 활발하게 교류하는 모습에 놀랐다. "러시아인은 착하고 같이 있으면 즐겁다. 장래에 섬에서 같이 살 수 있으면 좋겠다." 라고 그 지역 고등학생이 전국에서 자기의 생각을 말하고 있는 모습을 보고, "나도 뭔가 할 수 없을까?" 하고, 가까운 독도에 눈을 돌린 것이 나를 움직이게 만들었다.

우선 한국을 알기 위해 한국어를 배우고, 실제로 한국인과 교류했다. 한국인은 착했고, 한국어나 한국문화를 가르쳐주었다. 내가 생각했던 한국이 아니었다. 일본 교육을 통해서 한국에 편견을 갖고 있었음을 깨닫는 순간이었다. 나는 지금 한국을 사랑한다. 많은 일본인이 한국과의 교류를 통해서 진짜 한국을 알게되어 편견이 없어졌으면 좋겠다고 생각했다. "한일의 학생과 함께 교류하고 싶다" 이것은 단 하나뿐인 나의 바람이다.

내가 사는 오키노시마는 2013 년 제주도 국제회의에서 유네스코 세계 지오파크로 인정받았다. 작년 한국의 한탄강 지오파크에 사는 일본인과 교류하였고, "한일 평화를 이을 수 있는 유일한 방법은 지오파크다." 라는 내 생각과 공감했다. "한탄강은 북한으로부터 흐르고 자연은 남과 북은 잇고 있다. 오키와 한국도 지오파크로 이어져 있다." 라고 말했다. 나는 지금까지 지오파크를 통해서 많은 나라의 학생과 교류했다. 한국과도 쉽게 교류할 수 있다고 생각했지만 무리였다. 교류를 의뢰했지만 거절당한 것이다. 전후 최악이라고도 불리던 한일 관계, 동해사이에 큰 벽을 느꼈다. 그러던 중 후배들이 "한국과 교류하고 싶다" 라고 나에게 말했다. 모두의 마음을 나의 한국어로, 솔직한 마음으로 한탄강 지오파크에 전달했다. 나의 활동과 한국에 대한 마음을 솔직한 심정으로 전했다. 한국분은 내가 한국에 관심을 가지고, 일본과 교류할 기회를 만들어 준 것이 기쁘고 감사하다고 말했다. 서로 너무 행복한 시간이었다. 교류는 11 월에 행해진다. 모두의 마음은 동해를 넘어 한일을 이었다.

이 일로 솔직한 내 마음을 전하는 것이 의미가 있다고 느꼈다. 지오파크가 나에게 기회를 주어, 9 월 태국 유네스코 세계 지오파크 국제회의의 무대에서, "내가 생각하는 한일 교류" 에 대해 세계에 발표하게 되었다. 앞으로도 한국과의 연결을 소중히 하고 싶다. 지오파크가 오키나 한국에 있어서 감사하다.

佳作

나를 나답게 해주는 한국

大石 光莉〔八洲学園大学国際高等学校〕

“나는 나 자신을 좋아한다.” 이 문장이 성립하도록 하는 것이 바로 K-Beauty 이다.

SNS 에서 쌍꺼풀이 있는 또래를 볼 때마다, 나는 늘 ‘눈이 커서 좋겠다, 나도 쌍꺼풀이 있으면 좋겠다’ 라는 생각을 했다. 물론 성형이라는 수단도 있었지만, 큰돈을 들이면서까지 해결하고 싶은 고민은 아니었다. 단지 마음 한구석에 쌍꺼풀에 대한 동경과 내 눈매에 대한 아쉬움이 있을 뿐이었다.

그러던 어느 날, 여느 때처럼 스마트폰을 켰더니 나처럼 홑꺼풀인 한국 여성이 메이크업을 통해 여신처럼 예뻐지는 영상이 눈에 들어왔다. 있는 그대로의 모습을 살리면서 아름다워지는 과정이 내게는 너무도 신기하게 다가왔다.

나는 바로 메이크업 도구를 갖추고 싶은 마음에 그동안 스쳐 지나가기만 했던 한국 화장품 가게에 발을 들였다. 처음 방문한 나는 수많은 상품 중 무엇을 사야 할지 몰랐기에, 조심스레 한국인 점원에게 “저기요” 하고 말을 걸었다. 걱정도 잠시, 우리 어머니 연배의 한국 아주머니는 아주 활기찬 목소리로 내게 여러 가지를 알려 주었다.

그중에서도 메이크업뿐만이 아니라 팩이나 스킨을 사용해 피부를 깨끗하게 유지하는 것, 채소를 듬뿍 넣어 만든 비빔밥이나 유산균이 풍부한 김치 요리를 많이 먹는 것, 즐겁게 사는 것 모두 아름다움과 관련이 있으며, 이 모든 것이 K-Beauty 와 연결된다는 점원의 말이 특히 인상적이었다.

나는 곧장 집으로 돌아와 가게에서 산 화장품으로 한국식 메이크업을 해 보았다. 생각보다 어려웠지만, 동영상을 보면서 몇 번이나 메이크를 하고 지우고를 반복하다 보니 감이 잡혀서 일단 거울을 보면서 확인해 보았다.

“세상에, 이게 내 눈이라고?!” 거울에 비친 내 모습이 무척이나 빛나 보였다. 콤플렉스였던 작은 눈이 반짝거리고 있었다. 메이크업에 따라 때로는 귀엽게, 때로는 멋있게 변하는 내 눈이 이전보다 더 좋아진 것 같았다.

어떻게 메이크업을 하면 좋을지에 대해 직원분께 직접 여쭤보다 보니 한국어로 이야기할 기회도 늘어났다. 한국식 메이크업에 어울리는 옷과 액세서리를 사고, 한식을 만들기 위해 고추장을 사기도 하며 늘 지나치던 가게에도 한 번씩 들어가 보게 되었다. K-Beauty 가 나의 일상을 더욱 풍성하고 산뜻하게 만든 것이다.

오늘도 나는 김치를 먹고 케이팝을 들으며, 책상에 화장품을 가지런히 놓는다.

그리고 생각한다.

“오늘은 어떤 내가 되어볼까?” 하고.

佳作

내가 좋아하는 한국문화

磯本 夏巳〔和歌山県立星林高等学校〕

모두에게 한국은 어떤 존재라고 생각합니까? 저에게는 지금까지의 인생을 한국문화 없이는 얘기할 수 없을 정도로 소중한 존재가 되었습니다. 그 중에서도 케이팝은 저를 옆에서 든든하게 지켜준 제일 친한 벗입니다.

제가 초등학교 5 학년때, 어머니가 병에 걸렸다는 것을 알게 되었습니다. 점점 말하는 것도 힘들어지는 엄마를 보고 “왜 우리 엄마가”, “다른 사람이 병에 걸렸으면 좋았을 텐데” 라고 매일 생각했습니다. 하물며 투병 중인 엄마에게 “우리 엄마가 아니었으면 좋았을 텐데” 라고 말해 버렸지만 용서를 빌지도 못한 채 후회만 했습니다.

그런 나에게 사과할 기회가 왔습니다. 코로나때문에 병원 면회가 좀처럼 안되다가 오랜만에 만났을 때였습니다. 저는 엄마에게 “그런 말해서 정말 미안해. 엄마 정말 사랑해요” 라고 말했습니다.

엄마는 말을 못하기 때문에 이해를 했는지 알 수는 없었지만 나한테 웃어 줬다는 것만은 확실히 기억하고 있습니다. 집으로 돌아오는 길에 차 안에서 케이팝을 들으면서 조용히 눈물을 흘렸습니다. 케이팝이 마음을 깨끗하게 씻어 내려주었습니다.

친구들한테 엄마얘기를 안 했기 때문에 제가 의지한 것은 케이팝 뿐이었습니다.
마음의 안정제였던 것입니다.

그 면회가 있고 며칠 후인 작년 가을에 엄마가 천국으로 떠났습니다. 그때 용서를 빌지 않았더라면 평생 후회했을 거라고 생각합니다. 케이팝이 내 마음을 든든하게 지지해 줬기 때문에 내 마음도 전할 수 있었다고 생각합니다.

케이팝은 아빠와의 관계도 더욱 깊게 해 주었습니다. 같이 좋아하는 음악도 듣고 같이 콘서트에 가다보니까 아빠와의 추억이 많이 생기면서 정도 깊어지고 같은 취미를 공유할 수 있다는 것이 자랑스러웠습니다.

제가 좋아하는 또 하나의 한국문화는 평상시에 전화할 때나 “사랑해 ” 라고 서로 말하는 것입니다. 저는 엄마하고 그런 말을 나눈 기억이 너무 적기 때문에 그 문화가 부러웠습니다.

이 습관이 있었다면 부끄러워 하지 않고, 어머니에 대한 마음을 많이 전했을 지도 모릅니다. ‘사랑해’ 는 애정 이외에도, 존경이나 우정, 감사를 표현할 수도 있다는 것을 알았습니다. 말로 상대방에 대한 생각을 표현하는 문화는 배려심이 넘친다고 생각합니다.

가족을 매우 소중히 여기는 문화, 사람을 연결하는 케이팝, 흥미로운 한국 문화를 앞으로도 계속 배우고 싶습니다.

最優秀賞

한국 소설을 좋아한다

川村 文〔東京都〕

나는 한국 소설을 한국어로 읽는 것을 좋아한다. 한국 드라마나 영화도, KPOP 도, 한국요리도 좋아하지만, 소설의 매력은 유난하다. 책을 읽으면서 한국 사람들의 정서에 접하면 새로운 세계가 펼치는 것 같다. 요새 코로나 19 때문에 한국여행을 못 가느니만큼, 나는 책 속에 빠져들어서 집에 있는 채로 이웃 나라에 한 걸음 다가간다.

'일본어로 읽고 싶은 한국 책 번역 콩쿠르' 에 응모하고자 한다. 과제 책은 〈나의 루마니아어의 수업〉(장은진),〈화장〉(김훈). 전자는 루마니아어라는 낯선 언어를 매체로 전개되는 가을의 러브스토리이며, 후자는 화장 (火葬, 化粧) 이라는 두 가지의 의미를 포함되고 삶과 죽음을 엮어 쓰여진 것이다.

먼저 페이지를 넘겨서 글자들을 바라본다. 사전을 찾지 않고 우격다짐으로 읽어간다. 문장 리듬감을 잃지 않게…, 뜻을 모르면 차마 앞으로 나아가지 못하는 단어만 알아본다.
그리고 소리를 내며 읽어 본다. 소설 세계를 머리 속에 수채화처럼 그려내 본다. 맑은 가을 하늘을, 암을 앓는 아내를 돌봐 주는 남편을, 노을에 물이든 여자의 목걸이를…. 번역이란 원문을 읽는 이가 떠올리는 그림과 번역문을 읽는 이의 그림을 겹치는 것이라고 한다. 가끔 소설을 원작으로 영화를 만들면 주인공 역할을 누가 맡으면 좋을까 내 마음대로 배역을 생각하기도 한다.

그런데 한국어에서 일본어로 번역할 때 고민하는 게 엄청 많다. 예를 들면 '서늘하다', '시원하다', '선선하다' 등 미묘하고 다양한 단어들의 늬앙스를 어떻게 일본어로 표현하면 좋을까? 그냥 '涼しい' 가 아닌 것 같은데 정답이 없다. 또 한국어는 직접적인 표현이 많은데, 한편 일본어는 완곡 표현이 흔하다. 인간관계를 나타내는 호칭도 일본어에는 딱 맞는 말이 없다. 흑흑.

이렇게 악전고투를 하고 마무리한 번역 원고를 한국에 관심이 없는 친구에게 읽어달라고 보냈다. 그랬더니 친구는 "나도 오랫동안 가족을 간호해 오니까 〈화장〉에 많이 공감하고 눈물이 났다", "한국과 일본 사이의 생활 습관의 차이가 아주 재미있었다", "병원에 장례식장이 병치되다니, 굉장히 놀랐다" 등 인상을 알려 주었다.

서로 문화를 이해할 수 있다면, 그리고 상대방의 정서를 느낄 수 있다면, 한일 교류도 더욱 나아갈 것이라고 믿는다. 선입견을 갖지 말고 일본 사람이 한국 소설을 더욱 읽었으면 한다. 아직 부족하지만 내가 번역한 소설을 친구가 읽어서 한국을 조금이라도 가까이 느꼈으면 좋겠다, 그런 작은 희망을 품기도 한다.

오늘도 나는 한국 소설 책을 편다.

優秀賞

굵은 線으로 이어질 한일 교류

山極 尊子〔埼玉県〕

펜데믹 직전 회사를 그만두고 사진관을 오픈한 한국인 친구가 있었다.
“사진작가가 꿈이었는데 가족들도 전적으로 동의해 주었다” 며 그는 기쁜 듯이 말했다.
그와는 예전 한국에서 일어 교사를 하면서 알게 됐었고 결혼을 계기로 일본에 돌아온 뒤에도 계속 근황을 교환하고, 언젠가 우리 아이들이 크면 한국과 일본으로 유학을 보내 한일간의 다리가 되게끔 해 주자며 약속한 사이였다.

일본으로 돌아온 나는 한국어를 활용할 수 있는 회사에 들어갔다. 서로 새로운 환경하에서 마음 설레던 바로 그때 코로나라는 사태가 터졌다. 사진작가인 그는 주 수입원이었던 웨딩・백일・환갑 등 모든 이벤트가 줄줄이 취소되었고 나도 한국과의 거래가 없어졌다는 이유로 계약이 해지되었다. 부푼 꿈에 부풀어 있었는데 하루아침에 우리 모두 백수가 된 것이다. 눈앞이 캄캄해졌고 몹시 우울해졌다.
그때 그는 포기하지 않고 이렇게 말했다.
“아무리 펜데믹 상황이라도 배운 지식은 뺏어갈 수 없어. 언젠가 코로나가 종식되면 타카코는 정말 하고 싶은 한국 관련 일을 하고 나는 정말 좋아하는 일본 손님의 사진을 찍을 수 있도록 지금 있는 곳에서 서로 힘을 내자” 고 펜데믹으로 한국과 일본은 왕래할 수가 없다. 서로 교류할 수 없는 곳에서 우리는 어떻게 해야 할까. 생각 끝에 우리는 지금 현재 더 최선을 다하기로 한 것이다.

그는 일용직으로 가계를 떠받쳤다. 나는 방통대에 입학해서 예전부터 관심 있었던 심리학을 배우기 시작했다. 앞이 보이지 않지만 “지금 열심히 하자” 고 약속했기에 서로 격려하며 하루 하루 열심히 노력하였다.

2022 년 점차 코로나가 종식되기 시작하면서 그에게 일이 조금씩 들어오기 시작했고 나는 방통대 졸업까지 6 학점을 남겨놓게 되었다.
그는 아르바이트를 하면서도 틈틈이 작가로서의 사진 실력도 키워 나갔다. 한번은 일본 손님을 소개해 달라며 멋쩍게 말하기도 했다. 나는 공부 중인 심리학과 일어 교사의 경험을 살려 일본 거주 중인 한국 어린이들의 돌봄과 일본어 봉사활동을 하고 있다.

긴 터널과 같이 어둡고 모두에게 힘든 기간이었지만 서로 격려하며 2 년을 보내고 나니 우리가 상상하지 못했던 미래가 보이기 시작하였다.
한일 교류도 마찬가지라고 생각한다.
왕래할 수 없어도 서로를 아끼는 마음으로 각자의 위치에서 노력하며 点을 찍어가다 보면 그 点과 点이 모여 언젠간 線이 되고 그 線이 모여 보다 굵은 線이 되어질 때 한일간의 더 굳건하고 밝은 미래가 열릴 것이라 믿어 의심치 않는다.

優秀賞

내 마음을 사로잡는 소리

白根 莉子〔二松学舎大学〕

나는 한국어를 좋아한다. 특히 한국어의 의성어, 의태어를 좋아한다.

「두근두근」이라는 말을 처음 들은 것은 중학교 3 학년 때였다. 왠지 그때 나는 한국어를 전혀 몰랐음에도 불구하고 '두근두근' 이라는 말이 무슨 뜻인지 알 수 있었다. 나에게는 이런 경험이 처음이었다. 내가 알고 있는 외국어의 의성어나 의태어의 이미지는 단어를 문자로 외우는 것이지 마음으로 느끼는 것이 아니었기 때문이다. 정말 놀라웠다. 이렇게 신기하고 흥미로운 어감을 가지고 있는 한국어를 더 알아보고 싶어졌다.

내 하루의 시작은 새로운 하루를 기대하는 마음과 함께 '두근두근' 설레는 마음으로 시작된다. 잠에서 깨어 창문을 '활짝' 열면 참새가 '짹짹' 지저귀면서 상쾌한 아침을 느끼게 해 준다. 상쾌한 바람이 '살랑살랑' 불어왔다. 공기 좋은 아침은 그날이 어떤 날이 될지 내 마음을 '두근두근' 설레게 한다. 거실로 나가자마자 고양이들이 '야옹야옹' 내 발밑에서 '옹기종기' 모여들면서 애교를 부린다. 아마도 배가 '꼬르륵' 거리는 시간이라 그런 것 같다. 상쾌하고 기분 좋은 날은 콧노래를 '흥얼흥얼' 거리면서 고양이들의 밥을 준비한다. 나도 아침을 먹고 나갈 준비를 한 뒤 집에서 발걸음을 옮겨 학교로 출발. 거리의 가로수에 나무들이 '간들간들' 바람에 흔들리고 춤을 추고 있는 것 같고 햇빛도 '반짝반짝' 빛나는 날엔 일부러 '느릿느릿' 걸으면서 그 분위기를 좀 더 느껴 보기도 한다. 드디어 역에 도착. 전철에는 이미 승객들로 '꽉꽉' 차 있다. 만원 전철을 타면서 생각을 한다. 오늘은 어떤 새로운 내용을 배울 수 있을까?

나는 지금 대학교에서 한국어를 공부하고 있다. 한국어를 공부하고 있다는 것이 나에게는 정말 행복한 일이다. 새로운 단어나 표현을 배우는 것이 즐겁고 또 한국어를 통해서 한국의 문화까지 배울 수 있는 것이 기쁘다. 진로를 결정할 때 나는 정말 내가 학습하고 싶은 것을 배울 수 있는 마지막 기회가 될 수도 있는 대학교, 그곳에서 정말 하고 싶은 공부를 하지 않으면 후회할 것 같아서 한국어를 전공하기로 결심했다. 내가 좋아하는 한국어를 배울 수 있는 지금의 환경이 나는 정말 행복하다. 나는 한국어가 좋고, 한국의 문화가 좋다. 한국어로밖에 표현할 수 없는 한국 고유의 다채롭고 아름다운 말들, 내가 전하고 싶은 말을 누가 들어도 자연스럽게 '술술' 구사할 수 있게 되는 그날까지 나는 앞으로 한국어 공부를 더욱 열심히 할 것이다.

佳作

김치와 선배

蓬田 理菜〔新潟大学〕

내가 대학교에 입학하고 처음 좋아하게 된 선배와의 순수한 짝사랑 이야기이다.

"아우, 짜! 아파~"

김치를 위해 절인 배추는 아마 이런 기분이 아닐까?

숨을 죽인 배추가 될 때까지 소금에 절이고 고춧가루가 많이 들어간 매운 양념을 바르고 맛이 들 때까지 재워둔다.

나는 대학생이 되고 나서 김치를 스스로 만들고 있다. 중학생 때부터 케이팝을 계기로 한국에 관심을 갖고 한국 문화를 접하고 싶은 마음이 컸다. 김치도 어렸을 때부터 좋아했고, 자주 먹고 있었다.

스스로 만드는 김치는 매운맛을 조절할 수 있어서 점차 내 입맛에 맞게 만들 수 있게 되었다. 특히 사과를 넣어서 내가 좋아하는 그리 맵지 않은 김치를 만들고 있다.

내가 좋아하는 사람을 만난 것도, 김치를 만들기 시작한 때였을 것이다. 한 살 연상의 대학교 선배이고 동아리에서 만났다.

선배에게 호감을 느끼고 있었지만, 선배는 나를 단지 후배라고밖에 생각하고 있지 않았다. 왜냐하면 가끔 선배는 나의 마음을 알면서도, 모르는 척하고 나와 사귀고 싶어 하지 않는 것을 느꼈기 때문이다.

나는 조금이라도 친해지고 싶어서 몇 번이나 데이트 신청을 했다. 그러나 우리 둘 사이는 그저 선후배 관계로 그 이상도 그 이하도 아니었다. 마지막으로 선배를 집에 초대해서 순두부찌개나 김치 등 내가 자주 집에서 먹는 한식을 만들어 줬다.

"나, 매운 것을 좋아해. 근데 파는 음식이 더 맵고 맛있는 것 같아."

선배가 김치를 먹을 때 한 말이다.

좋아한다면 모두 맛있게 먹을 것이다. 하지만 역시 선배는 나를 좋아하지 않는 것 같다. 선배의 입맛조차 내 것으로 만들 수 없었다.

선배가 돌아간 뒤 난 울고 말았다.

"아우, 짜! 아파~"

내 눈물이 짜고 내 마음이 아팠다ㅠㅠ.

그리고 일 년이 지난 뒤, 우연히 선배의 친한 친구에게서 이런 이야기를 듣게 되었다.

때때로 덜 맵고 달짝지근한 그 김치의 맛이 생각난다.

그 김치를 만든 후배와 처음 만난 날은 동아리에서였다. 후배의 첫인상은 「단지 나에게 호감이 있는 후배」라는 정도였다.

몇 번이나 데이트 신청을 거절해도 계속해서 노력하는 모습이 정말 귀엽게 느껴지고 어느 순간부터 나도 후배를 의식하기 시작했다. 그러나 마지막으로 후배의 집에서 밥을 먹은 날부터 두 번 다시 후배는 나에게 데이트 신청을 하지 않았다.

원인은 역시 나에게 있었다.

만약 그때 선배이고 남자인 내가 솔직히 "맛있어." 라고 말했다면…우리는 어떻게 되었을까?

후배가 만든 김치의 단맛이 지금은 그립다ㅠㅠ.

佳作

해바라기와 태양

前田 美結〔昭和女子大学〕

내가 해바라기라면 내가 좋아하는 케이팝 아이돌은 태양이다. 나는 이 세상에 수없이 피어 있는 해바라기 중 한 송이고 그는 이 세상에 단 하나뿐인 태양이다.
하지만 해바라기는 태양을 향해 열심히 노란 꽃을 피운다.

나는 그의 생일이 언제인지, 키가 몇인지, 무슨 일을 하고 있는지 안다. 노래를 만드는데 얼마나 힘들었는지 안다. 컴백하기 위해 열심히 연습한 것도 안다. 하지만 그는 내 생일이 언제인지, 키가 몇인지, 어떤 공부를 하고 있는지 모른다. 오늘 학교에서 어떤 힘든 일이 있었는지 그는 모른다. 나는 그가 아프면 떼 걱정하는데 그는 내가 아프고 병원에서 링거를 맞고 있어도 그것을 모른다. 그래도 나는 그를 보고 힘을 받고 내일도 열심히 살아보자고 결심한다.
좋아하는 아이돌이 있다는 건 참 행복한 일이다.
그의 콘서트가 있을 때는 그날을 기대하면서 힘든 공부나 아르바이트를 열심히 한다. 그의 콘서트가 있는 날에는 귀여운 옷을 입고 예쁘게 화장하고 회장으로 향한다. 그리고 많은 팬과 함께 그를 향해 열심히 노란 성원을 보낸다. 마치 해바라기처럼.

나는 그를 보고 한국어를 공부하기 시작했다. 언젠가 그를 만날 수 있었을 때, 한국어로 이야기할 수 있도록. 그렇게 공부하다 보니 소중한 친구들도 만났고 예쁜 한국 문화도 만날 수 있었다. 그를 쫓아가다 보니 한국어 공부를 시작하고 한국어를 공부하는 즐거움을 알게 됐고, 이제는 그것을 살려 자막 번역가가 되고 싶다는 꿈을 찾았다. 그가 나를 여기까지 이끌어 주었다. 아니, 내가 그를 쫓아 열심히 공부했기 때문에 여기까지 올 수 있었을지도 모른다. 그러나 그가 없었다면 지금의 나는 없었을 것이다. 해바라기가 태양 없이는 성장할 수 없는 것과 마찬가지로.

그렇게 열심히 쫓아가 공부하는 해바라기를 보며 예쁘다고 느끼고 용기를 얻을 사람이 있을지도 모른다. 그러면 나도 태양이 될 수 있지 않을까.

佳作

우리를 현혹시키는 언어유희의 끝판왕 '먹방'

稲田 志乃〔徳島県〕

'보리밥에 까만 된장, 시든 고추 두어 개와 졸인 감자' 이것은 조세희 작가의 "쏘아 올린 난장이의 작은 공" 에 그려진 주인공 가족들의 식단이다. 1970 년대를 시간적 배경으로 하는 이때의 한국은 경제적으로 힘들었지만, 지금은 세계 10 위 경제 대국으로 성장했다. 이와 더불어 여러 문화 콘텐츠를 전 세계로 발신하고 있는데 그중에 세계 고유어의 하나로 굳어질 정도로 인기를 끌고 있는 것이 바로 '먹방' 이다.

1970 년대와는 180 도 다른 다른 음식업계. 프로 먹방러들의 먹방 콘텐츠는 한국뿐만 아니라 여러 나라에서도 업로드되는데도 검색해 보면 유독 한국 먹방이 많이 소개되어 있다. 식사하면서 이야기를 이어 나가는 것뿐인데 왜 그렇게 인기가 있을까? 일본에도 다른 나라에도 음식 문화가 있는데 왜 한국에 비해 주목을 받지 못할까?

먹방은 그냥 먹는 것을 보여 주는 것이 아니라 우리의 오감을 자극한다. 냄새와 맛을 느낄 수 없는 시청자를 위해 보글보글 끓이는 소리, 오도독 씹는 소리를 들려주며 상상 밖의 표현으로 맛을 평가한다. 우리의 시선을 고정시키고 그 맛을 궁금하게 한다. 이것을 본 우리는 같은 음식 재료를 구입한다. 이렇게 먹방은 행복을 느끼게 해주는 가성비 최고의 콘텐츠이다.

한국의 유명 개그맨이자 프로 먹방러인 김준현은 냉면을 먹으면서 다음과 같은 멘트를 날린다.
– 감칠맛 폭발하는 새콤 달달한 비빔냉면! 면이 유난히 굉장히 가늘고 반짝반짝 빛나요. 양념 듬뿍 묻혀 입으로 직행! 면발 원샷! 새콤×달콤×매콤 –
요리 비주얼에 맞는 적절한 코멘트는 우리를 현혹하기에 충분하다.

먹방 콘텐츠를 난장이가 쏘아올린 작은 공의 주인공들이 본다면 어떨까? 충격 자체일 테지만 어쩌면 우리처럼 대리 만족을 느꼈을지도 모른다. 먹방에서는 '보리밥에 까만 된장' 이 '하얀 쌀밥에 불고기 전골', 이 되고 '시든 고추 두어 개' 가 '간장게장' 으로, '졸인 감자' 가 '전복 새우볶음' 으로 바뀌었다.

인간에게 중요한 행복 중 하나는 사랑하는 사람과 맛난 음식을 즐기는 거라고 한다. 나쁘게는 처음 맛본 음식이 불쾌했다면 평생 안 먹기도 한다. 이렇게 입에 직접 넣는 먹는 행위를 다루는 먹방 콘텐츠는 지금의 우리 삶에서 무시할 수 없게 됐다. 나는 고향 도쿠시마에서 한국 음식 콘텐츠를 다루는 일을 하고 싶다. 한국어 네이티브처럼 언어를 자유자재로 구사할 수는 없겠지만, 삼시세끼 가볍게 때울 수 있는 일본식 한국 밑반찬 콘텐츠를 제작해 보고 싶다.

佳作

우물 안 개구리가 큰 바다로 나가는 방법
- '클릭'의 힘 -

井関 彩乃〔帝塚山学院大学〕

우물 안 개구리… 나는 우물 안 개구리가 되기 싫어서 늘 도전 정신으로 살아왔다. 정든 고향 도쿠시마와 부모님을 뒤로하고 오사카에 있는 대학에 진학한 것도 한국어를 통해서 더 넓은 세계로 도약하고 싶었기 때문이다. 하지만 나의 노력이 부족해서가 아니라 코비드 19 로 인해서 불가피하게 우물 안 개구리 같은 삶을 2 년 가까이 살았다. 우리의 평범한 일상은 크게 바뀌었고 대학 생활도 많은 것이 제한되었다. 나는 우물 안 개구리처럼 뒷다리를 쭉 뻗어 하늘을 쳐다봐도 동그란 아주 작은 하늘밖에 보이지 않았다.

나에게 한국 유학은 대학 진학의 목표였다. 작년 11 월, 연기되었던 유학 설명회가 열렸고 그곳에서 공지를 받았다. 우리의 유학은 또다시 연기되었다. 아무리 발버둥 쳐도 우물에서 나갈 수 없는 개구리처럼 자포자기하고 있을 때 우연히 좋은 기회가 다가왔다. 아니, 용기를 내어 그 기회를 잡았다. 서울여자대학교의 학생과 1 대 1 로 온라인 교류를 하는 것이었다.

대학에서 일어일문학을 전공하는 내 또래의 한국인 친구, 그리고 한국어 한국문화를 전공하는 일본인인 나. 유학의 갈증을 해소하듯 서로에게 소중한 시간이었다. 버튼을 누르기 전 그리고 카메라를 켠 직후, 서로가 느꼈던 어색함은 어디론가 사라지고 화기애애한 분위기에 우리는 편안해졌다. 아이러니하게 나의 첫 한일 교류는 코비드 19 가 만들어 낸 온라인 혁신의 은혜를 입게 된 것이다.

이 교류는 나를 더 성장시켰다. 언제 귀한 인연을 만날지 모르니 전보다 더 부지런히 살게 되었다. 온라인 교류의 클릭은 소극적인 내가 바뀌는 순간이었다. 그 친구가 보내준 선물 안에는 연하장이 들어 있었다. 연하장 안에는 친구가 좋아하는 일본 애니메이션의 대사가 적혀 있었다. "좋다. 혼자서 끝나지 않는 세계는 생각보다 더 좋다." 이 글은 마치 유학의 꿈과 희망을 잃었던 나에게 친구가 건네는 우정의 메시지로 다가왔다. 견우와 직녀가 일 년에 한 번밖에 만나지 못해 더 애절한 것처럼 우리의 우정도 만나지 못해 안타까웠고 유학을 포기할 수밖에 없었던 코로나 학번의 한 사람으로서 통하는 것도 많았다.

우물 안 개구리는 그 우물 밖으로 나와 넓은 바다도 보고 높은 산도 보았다. 나는 이 기회를 원동력으로 나를 내 안에 묶어 두지 않고 훨훨 날게 할 것이다. 나의 긍정 바이러스를 내가 사랑하는 한국과 일본 여러분에게 골고루 뿌려 드리고 싶다. 진정한 한일 교류! 그래 용기 있는 사람만이 얻을 수 있는 것이다.

最優秀賞

부산 에피소드 1

湯澤 葉子〔東京都〕

해운대의 겨울 바다를 보며 카페에서 따뜻한 커피 한잔. 나의 첫번째 부산 여행의 아침이다. 바닷가를 혼자 걸어봤다. 갈매기가 우는 소리, 내 얼굴을 스치는 바람, "여기가 부산이네~" 나는 백사장에 앉아서 잠시 바다를 느끼다가... "어! 추워!"

오후 한국어 선생님하고 친구들과 호텔에서 만나 본격적인 부산 여행이 시작됐다. 우리는 '오이소, 보이소, 사이소' 이 말에 이끌려 마음껏 즐겼는데 밤에 돌아온 호텔 방에서... "아! 없어! 없어! 내 여행 가방의 열쇠가 없어." 그 순간 오늘의 반짝이던 내 부산이 빛을 잃었다.

어떡하지! 한국 드라마라면 멋진 남자가 나타나서 도와 줄 텐데... 하지만 이것은 현실이다! 친구들을 먼저 목욕탕로 보내고 나는 혼자 곰곰이 생각해 봤다. 해운대 바닷가에 떨어졌다면 절망적이다. 그럼 어떻게든 열어 보자! 나는 옷핀 등, 이것 저것을 구멍에 넣어봤다. 하지만 아무 반응이 없었다. 그럼 당장 필요한 옷을 살까? 따뜻하면서 뚱뚱한 나한테 맞는 옷이 있을까? 내 머리속에 떠오른 것은 한국에서 자주 보던 푹신한 잠옷. 일본 개그맨이 이걸 입고 한국 여행을 하는 것을 본 적이 있다. 안돼! 싫어! 난 개그맨이 아니야!

나는 여행 가방을 들고 프런트로 갔다. "이것을 열 수 있는 게 없을까요?" 라고 물어 보니 여성 직원은 "죄송합니다만 없습니다." 라고 했다. 내 표정이 어두워 지는 걸 보더니 그 직원이 "이것을 써 보실래요?" 라고 말하며 머리에 꽂고 있던 실핀을 빼서 주셨다. 나는 얼른 방에 가서 시도해 봤다. 몇 번이나 시행착오를 하다가 갑자기 내 머리속을 스치는 것이 있었다. 아! 그래! 나는 핀을 넣어서 90 도 돌렸다. 어! 뭔가 실핀의 고리에 걸렸다. "제발!" 천천히 핀을 위로 올렸더니 "딸깍!" 열쇠가 열렸다. "아싸~~~!" 그 순간 빛을 잃었던 오늘 여행의 기억이 다시 그 빛을 되찾았다. 나는 전생에 도둑이었을까? 그랬더라도 감사한 마음 뿐이다. 나는 날아갈 듯 프런트로 갔다. 아까 그 직원이 안 계셔서 나는 감사하다는 메모와 함께 실핀을 다른 직원에게 맡겼다.

방에 돌아온 친구들은 열려 있는 내 여행 가방을 보고 자기 일처럼 기뻐해 주었다. 목욕탕에서 "옷을 빌려 줄까?" 걱정했다고 한다. 참으로 고맙고 소중한 친구들이다.

다음 날 아침, 나를 살려 주신 직원의 바쁜 모습. 나는 속으로 감사하다고 말하는데 그 순간 직원 머리에서 빛을 내는 나의 구세주 실핀! "굿모닝, 오늘도 반짝이는 부산!"

優秀賞

문명의 이기가 흉내 내지 못하는 “아날로그식 넘사벽의 감동”을 향해

尾崎 友香〔兵庫県〕

“これは韓国語で何？”여러분도 AI 음성 인식 시스템에 의존해 도움을 받은 적이 있을 것이다. AI와 음성 인식 기술, 인공 지능의 결합은 요즘 10년 새 크게 발전하였고 우리 젊은 세대는 윗세대들보다 뭐든지 쉽고 빠르게 손에 넣을 수 있게 되었다. 하지만 이런 스피디한 편안함은 윗세대들이 경험한 소중한 무언가를 놓치게 하는 것 같기도 하다.

“고모는 왜 그렇게 한국에 자주 가요?”초등학생이었던 나의 질문에 고모는 “사람!”이라고 대답했다. ‘한류 배우도 맛있는 야키니쿠도 아닌, 그냥 사람이라고?’ 조금 의아하기는 했지만 그다지 인상 깊은 것도 아니었다. 하지만 왠지 마음속에 그 두 글자가 남아 있었다. 그리고 한국 여행을 갔던 나는 고모의 명쾌한 답을 떠올리며 살짝 미소지었다. 그건 고모를 이해하는 미소였다.

졸업여행으로 친구와 간절히 바라던 서울로 향했다. 티머니라는 교통카드를 이용해서 유명한 카페에 가기로 했다. 하지만 문제가 생겼다. 티머니는 카드 자판기에서만 살 수 있었는데 구입 방법을 몰랐던 것이다. 우물쭈물하는 우리를 보고 대학생으로 보이는 남자분이 걸음을 멈추고는 번역 앱을 사용하여 설명해 주었다. “감사합니다!”를 몇 번이고 외치자 그분은 또 무언가를 앱에 입력하기 시작했고 흘러나온 말은 “よい一日を (즐거운 하루 되세요)!”AI의 음성이었다. 고마우면서도 마음속 어딘가에서는 ‘이렇게 친절한 분의 목소리는 어떨까?’ 하고 궁금했다. 지하철을 무사히 탄 우리는 안도의 한숨과 함께 몇 번이고 시계를 확인했던 그분의 모습을 떠올리고는 더 미안해졌다. ‘급한 볼일이 있었는데 도와준 거구나!’

고모가 한국을 밥 먹듯이 방문하는 이유가 왜 "사람"이었는지 이제는 알 것 같다. 고모는 자신이 좋아하는 한국 드라마나 음식보다 자신이 좋아하는 것을 만들어내는 땅 한국, 그리고 새로운 모습으로 그 문화를 보여주고 따뜻하게 맞이해 주는 한국분들께 마음을 빼앗기지 않았을까?

나는 그때 남자분의 따뜻함을 떠올리며 이 글을 쓰고 있다. 이러한 사람 대 사람이 만들어내는 서로를 생각하는 아름다운 하모니는 선진 AI 기계들이 결코 흉내 낼 수 없는 영역일 것이다. 서울에서 나를 도와준 분은 문명의 도움을 받았지만 나는 적어도 한국어에 관해서는 내 머릿속과 가슴속 그리고 나의 입에서 해결할 수 있도록 차곡차곡 노력해 나갈 것이다. 이 세상에 단 한 명이라도 나를 생각하며 글을 써 주는 사람이 나온다면 얼마나 행복할까?

優秀賞

오목대로 가는 길

山﨑 智子〔愛知県〕

2006 년 여름 난 혼자서 전주한옥마을을 방문했었다. 큰 길에 '오목대로 가는 길' 라는 전통 찻집 앞에서 발걸음이 멈췄다. '어서오세요. 어서오세요' 라고 하듯 입구에 걸린 베 커튼이 바람에 나부끼고 있었다. 한국 찻집에 들어가는 것은 처음이라서 불안했지만 목이 좀 칼칼해서 아무거나 마시기로 했다. 작은 창문으로 따가운 햇살이 들어왔지만 상쾌한 바람이 불어서 너무 시원했다. 찻집 안에는 한 동네 할아버지가 푹 쉬고 있었고, 다른 40 대 여성이 차를 느긋하게 마시고 있었다. 찻집 주인은 30 대 초반으로 보이는 여성이었고 부드럽고 천천히 말하는 사람이었다. 나는 다다미에 앉았다. 탁자 위엔 한지로 된 메뉴가 있었다. 메뉴를 열어보니 문자와 가격밖에 없어서 이름만 가지고는 어떤 차인지 추측할 수가 없었다. 그래서 제일 처음 눈에 띈 '오미자차' 를 고르고 어떤 차일지 기대하고 있었다. 기다리면서 메뉴 옆에 있었던 시를 읽었다.

잠시 후 찰그랑 찰그랑 시원한 소리가 다가왔다. 아무래도 내가 주문한 차가 오는 것 같았다. 물방울이 붙어 있는 유리 컵 안으로 차가 보였다. 그 차는 내가 이제까지 본 적이 없는 녹색도, 갈색도 아닌, 투명한 붉은 것이었다. 컵 안의 얼음들은 햇빛을 받고 반짝반짝 빛났다. 한 모금 마셔봤더니 갑자기 신맛이 입 안에 가득 퍼져서 너무 놀랐다. 차를 다 마셨더니 피로가 살짝 풀리는 느낌이 들었다.

그 때 찻집에 있던 40 대 여성이 소탈하게 일본어로 말을 걸었다. 정좌 자세를 취하는 나를 보고 즉시 일본사람인지 알게 됐다고 했다. 자신은 사진작가이고 폐업을 앞둔 가게 사진을 찍는다고 했다. 찻집 주인이 보고 있던 사진집을 내게도 보여 줬다. 그 안에는 세피아색 작은 사진이 한 쪽에 한 장씩, 큰 하얀 여백 중앙에 달랑 실려 있었다. 사진을 보고 있으니 시간 여행을 하는 것 같은 착각이 들었다. 모든 사진 안 가게 옆에는 주인이 서 있었다. 업종은 이발소, 야채 가게, 가전제품점등 다양했다. 폐업해서 그런지 쓸쓸한 얼굴을 하는 사람도 있었고, 억지로 미소나 함박 웃음을 짓는 사람도 있어서, 나는 사진집을 다 보고 나니 복잡한 기분이 들었다.

나는 과연 몇 시간 그 찻집에 있었을까 ? 그 찻집을 나갈 때는 하늘이 벌써 붉게 물들고 있었다.

몇 년 뒤에 그 찻집을 다시 찾아봤었는데 못 찾았다. 2006 년 그 여름날 일은 환상이었을까 ?

佳作

태극 낭자와 나데시코 재팬을 이어준 치킨 한 조각

新田 萌夏〔大阪府〕

나는 나데시코 재팬! 일본 여자 축구를 이끄는 공격수로 골도 많이 넣는다. 골망을 흔들면서 한국어 공부에 희열을 느끼는 사람이 일본 땅에 몇 명이나 될까? 얼마 없을 것 같은 숫자에 내가 들어 있어 뿌듯하다.

코로나 19 의 출현은 사람들을 분단시키면서도 20 년 걸릴 온라인의 발전을 불과 삼 개월만에 이루게 했다. 질적으로 차이는 있겠지만 수업, 회의, 콘서트 등 세상 모든 것이 온라인 한방으로 해결되었다. 하지만 단 하나 얼굴을 맞대지 않으면 성립되지 않는 것이 있다. 바로 그것은 운동 경기!

고교 시절, 축구 시합을 위해 한국을 방문했다. 한국과 일본은 다른 나라에 비해 지리적으로도 심리적으로도 가깝다고 들었지만, 피부로 느껴볼 기회는 없었다. 실제로 한국 선수와 시합하거나 교류를 하면서 두 나라는 닮은 듯 다르다고 생각했다. 그중에서 가장 큰 차이점은 '생활의 자유도' 이지 않을까? 일본 선수는 규칙 안에서 행동하고 누구 하나 일탈하지 않는 반면에 한국 선수들은 규칙을 잘 지키면서도 살짝 자유를 즐기는 문화가 엿보였다.

저녁 식사 후의 시간 활용을 예로 들면, 우리는 숙소로 돌아가 텔레비전이나 스마트폰을 보면서 각자 시간을 보냈다. 하지만 한국 선수들은 큰 방에 전원이 모여 치킨과 콜라 등 배달 음식을 시켜서 파티를 시작했다. 그들에게는 일상일지 몰라도 나에게는 파티로 보였다. 만약 우리들이 이런 행동을 했다면 감독에게 "시합하러 왔냐? 먹으러 왔냐?" 하면서 꾸중을 들었을 거다. 내가 더 놀란 것은 그녀들의 다음 행동이었다. 태극낭자 수 명이 우리들의 방을 방문하고는 "치킨하고 콜라가 있는데 혹시 먹을래요?" 하고 나누어 주었다. 라이벌인 우리에게……. 이 치킨을 계기로 이국에서의 긴장감이 풀렸다.

다음 날이 시합이라 나는 건네받은 치킨을 먹을까 말까 고민하다가 결국은 양념 옷을 멋지게 입은 반질반질 바삭바삭 비주얼에 유혹되어 그만 먹어 버렸다. 그 치킨의 힘과 태극낭자들의 배려 덕이었을까? 우리는 원정 경기 시합에서 승리를 거두었다. 미안, 태극낭자!

태극낭자와의 교류는 나의 한국어 공부에 더욱 박차를 가했다. 삼 년 동안이나 시합을 못 한 우리지만 언젠가 다시 만나 같이 땀을 흘리고 싶다.

치킨 한 조각으로 시작된 감동을 한국과 일본 모든 분들과 같이할 수 있다면 얼마나 좋을까? 뭔가 매개가 있어야 가까워지므로 이번엔 치킨이 억 단위로 필요할 것 같다. 이것을 대체할 수 있는 뭔가를 모색 중인 요즘이다.

佳作

사람 사이의 선을 예쁘고 우아하게 넘나들기

小谷 里彩子〔大阪府〕

함께 하는 것보다 혼자만의 공간이 편한 그런 삶을 우리는 살아가고 있다. '우리' 라는 테두리를 소중하게 여기는 한국 문화에서조차 혼술, 혼밥, 혼행 등, 나 홀로 일상을 즐기는 문화에 점점 익숙해져 가는 느낌이다. 특히 모르는 사람들과의 보이지 않는 거리감을 나타내는 퍼스널 스페이스는 요즘의 심리전까지 가세해서 우리를 더욱 멀어지게 했다.

지금부터 나는 한국 여행을 통해서 느낀 퍼스널 스페이스에 대해서 이야기하려고 한다. '퍼스널 스페이스라는 것이 문화마다 이렇게 다르구나!' 하고 정말 놀랐기 때문이다.

나의 첫 한국 여행 1 일째 때, 어머니와 홍대 삼겹살 식당에서 경험한 일이다. 점심시간을 훌쩍 지난 시간이라 들어가야 하나 말아야 하나 망설이고 있을 때 스태프분이 "지금 드실 수는 있지만 직원들의 휴식 시간과 겹쳐서 저희도 손님들 옆에서 식사해야 하는데 괜찮으시겠어요?" 대충 이런 내용이었다. 물론 우리의 대답은 오케이! 누가 보면 한 식구가 같이 식사하고 있는 광경이 펼쳐졌다. 일본이라면 '준비 중' 이라는 푯말을 내걸고 손님을 받지 않았을 거다. 애써 친절하여지려고 애쓰는 모습이 아닌 자연스럽게 손님을 대하는 모습에 첫 한국 여행의 불안함은 어디론가 사라져 버렸다.

다음은 여행 2 일째 때의 에피소드. 교통 카드를 충전하려고 5 만 원 권을 기계에 넣었는데 돈이 그냥 나와서 곤란해하고 있었다. 그러자 옆에서 충전하고 있던 아저씨가 내가 가지고 있던 5 만 원 권을 손가락으로 가리키면서 손으로 엑스를, 그다음 분주히 자신의 지갑에서 만 원짜리를 꺼내더니 동그라미 제스추어를 취해 주셨다. 열심히 팬터마임을 보여주시는 아저씨를 보며 말은 안 통해도 마음으로는 통한다고 생각했다.

이런 경험을 통해 일본 사람들은 보이지 않는 선을 무의식으로 긋고 살지만, 한국분들은 사람들 사이에 선이 마치 없는 것처럼 서로의 선을 자연스럽게 드나든다는 것을 알았다. 여러 감염병을 안고 사는 현대인은 사람과의 접촉을 피하는 것이 최고의 생존 방식이 되었다. 코로나 이후에 한국을 방문한 적이 없어서 내가 좋아했던 문화가 변하지 않았을까 걱정이 되지만 나는 믿고 싶다. 그들은 그대로 나를 기다려 줄 거라고.

나에게 주어진 시간과 내가 놓인 공간을 어떻게 조화시켜 나가는지, 다른 사람과의 관계를 어떻게 맺어가는지에 따라 나의 인생의 모습은 달라질 것이다. 보이지 않는 선을 예쁘고 우아하게 넘는 법! 나는 그것을 한국 문화를 통해 배워 갈 것이다.

佳作

여행이 아닌 여행

斉 智司〔埼玉県〕

난 한국이 좋다. 그래서 지금까지 한국의 많은 곳을 여행했었다.
펜데믹 이후 오랜만의 한국 여행! 어디로 갈까 고민하고 있는데 한국 친구가 "가끔 여행 아닌 여행도 해보면 어때?" 라고 제안하며 머물 곳을 마련해주었다. 뜻도 제대로 이해하지 못한 채 난 한국으로 떠났다.
숙소는 호텔이 아닌 아파트였다. 여행이 아닌 여행이란 한국 생활을 체험하라는 것인가?

창밖을 바라보니 고속도로가 보이고 끊임없이 차가 달린다. 한참을 보니 흰색・검은색・회색 차량이 많다는 것을 깨달았다. 한국인은 유행을 타지 않는 색깔을 좋아하는군. 나는 새로운 한국을 찾은 기분에 기뻤다.

곧바로 친구에게 감사 전화를 하자 "여긴 분당이라는 신도시야. 신도시는 자연과 주택, 아파트가 계획적으로 정비돼 있어서 너무 예뻐, 꼭 분당 라이프를 즐겨봐" 라고 말했다.
나는 우선 편의점에 들러 지정 쓰레기봉지를 사기로 했다.
한국어로 쓰레기봉지를 어떻게 말하는지 몰라 주춤거리고 있는데 편의점 아저씨가 "얼마나 한국에 있죠? 지정 봉투는 많이 있는데 어떤 종류의 쓰레기봉투가 필요한가요?" 라고 손짓으로 말을 걸면서 크고 작은 봉지를 계산대에 올려놓았다. "일주일 머물면 이 크기가 좋을 거예요" 아저씨는 뒤에 줄 서 있는 분에게 양해를 구하면서 나에게 회색빛 종량제봉투 20ℓ 한 장을 건네주었다. 뒤쪽의 아주머니도 내가 동전을 꺼내는 동안 "천천히 해도 괜찮아요" 라며 다정하게 말을 건네주셔서 빨리빨리가 아닌 한국문화를 엿볼 수 있었다.
밖으로 나오자 우뚝 솟은 빌딩군이 나를 반겼다. 빌딩군을 따라 걸으니 나무가 심겨져 있는 곳이 나온다. 나무 옆으로 다가가니 큰 강이 펼쳐진다. 너무 아름답다. 탄천이다. 탄천 옆에는 물놀이장이 있어 가족들이 즐겁게 놀고 있다. 나는 이국적 광경에 흥분을 느끼며 강가를 산책했다. 자연과 어우러진 산책로, 정서적이고 세련된 자연과 도시의 융화가 매력적이다. 나는 이 매력에 빠져 하루에도 몇 번씩 탄천을 산책했다. 낮에는 웃음이 넘치는 아이들. 밤에는 조깅하는 어른들. 아침이면 사이좋게 걷는 노부부. 탄천은 나에게 여러 가지 표정을 보여 주었다.

마지막 날 편의점에 가니 그 아저씨가 "쓰레기봉투 괜찮았어요?" 라고 물어보았다.
가이드북을 보고 찾아다니는 관광도 좋지만 이렇게 한국인의 삶을 엿볼 수 있는 소박하고 다정한 여행 또한 즐거웠다.
나는 내년에도 꼭 종량제 봉투를 사러 여기로 올 것이다.
그리고는 편의점 아저씨에게 힘차게 손을 흔들어 보였다.

佳作

친구 좋다는 게 이런 거지

ペンネーム：무궁화 꽃〔奈良県〕

나한테는 한국 베프가 있는데 어느 날 그 친구가 한국에서 뭘 하고 싶냐고 묻길래 한국의 지방 여행을 한번 해 보고 싶다고 했더니 강원도 강릉 바다열차 투어를 예약 해줬다. 한국 여행사가 하는 투어가 처음인데다가 그 친구와 같이 여행하는 것도 처음이라서 그런지 마음이 들떠 있기는 했지만 왠지 모르게 불안하기도 했다.

여행 당일, 약속 장소에는 많는 사람들이 모여 있었고 다들 같은 뱃지를 달았다. 다들 같이 버스를 타고 '자! 출발!!' 물론 내가 유일한 외국인이라 가이드가 해 주는 이야기는 다 한국어였지만 오히려 그게 너무 신선해서 마치 한국사람이 다 된 것 같은 느낌이 들었다. 버스를 타고 얼마나 지났을까? 친구가 갑자기 집에서 삶은 옥수수를 나한테 내밀었다. 갑자기 웬 옥수수! 이것도 한국 스타일인가? 어쨌든 주는거니 받아서 먹었는데 내가 아는 옥수수가 아니라서 놀랐다. 쫄깃한 식감도 좋고 너무 맛있어서 계속 손이 갔다. 한국 사람들은 여행 갈 때 삶은 계란이나 옥수수를 가져가는 걸 봤는데 이런 맛이 여행의 묘미가 아닐까 싶은 생각이 들었다.

도중에 내린 항구에서 친구가 점심을 먹자면서 맛집을 소개 해줬는데 곰치 요리 맛집이었다. 나는 그 못 생긴 곰치를 어떻게 먹을 수 있겠냐고 거절 했지만 친구가 뭐든 다 경험이라고 하길래 어쩔 수 없이 곰치탕을 먹기로 했다. 그런데 막상 먹어 보니까 담백하지만 맛이 응축 되어 있는 게 잊지 못 할 맛이었다. 백문이 불여일견이라는 말이 딱 맞았다.

그 후 다시 버스를 타고 오늘의 메인 이벤트인 바다열차로 갈아탔다. 좌석들이 다 바다를 보고 있어서 아름다운 바다를 즐기면서 가는 열차였다. 날씨도 좋고 절경을 보면서 우아하고 느긋하게 달리는 열차여행은 최고였다. 한참을 구경하는데 차내에 있는 모니터에 갑자기 어떤 메시지가 보이더니 '멀리 일본에서 온 소중한 친구 □□짱, 살고 있는 곳은 다르지만 우리의 우정 영원하길' 이라는 보드를 보고 깜짝 놀랐다. 친구가 나한테 서프라이즈를 준비해준 것이다. 일본에서도 없었던 일이 설마 한국에서 생길 줄 상상도 못했던 타라 눈물이 나올 만큼 감동을 받았다는 게 꿈만 같았다. 너무너무 고맙고 나한테는 잊지 못 할 추억이 됐다.

지금은 비록 코로나 때문에 그 베프를 못 만나고는 있지만 우리의 우정을 믿고 있으니 다시 꼭 만날 수 있으리라! 그때까지 서로 건강하고 행복하게 살아야 겠다고 우리는 서로 약속했다.

最優秀賞

藤野 美保子〔神奈川県〕

雨止みを農酒（のうじゅ）とチヂミで待つ田夫

優秀賞

青柳 婦美子〔東京都〕

マッコリが喉へととろり春うらら

松本 美和〔東京都〕

白ごはん 入れるかかけるか 悩むチゲ

佳作

白津 祈恵子〔宮城県〕

韓ドラが変える職場の相関図

伊藤 明子〔愛知県〕

漢江のさざ波のまま凍つる夜

清水 璃乃〔鳥取県立境高等学校〕

パチパチと 雨の音かな チヂミかな

前田 夢子〔千葉県〕

北村の坂 杖つく母の背 恋しくて

最優秀賞

長谷川 衣津子〔東京都〕

“오케이 구글” …
내 한국어 발음은 왜 몰라주니 ?

優秀賞

高岡 寿絵〔京都府〕

차례상 배달 할매가 계셨다면 절대 회초리

大内 彩衣〔神奈川県〕

돗자리 깔고 배달을 기다리는 한강의 노을

佳作

三輪 夏未〔立教大学〕

아까 20000 원 지금은 15000 원 동대문시장

Mung Gabriel〔東京都立深川高等学校〕

전철 자리를 양보하는 모습은 바로 상남자

今野 秀子〔宮城県〕

베란다에서 깻잎이 크게 자라 저녁은 보쌈

藤原 優季〔神田女学園中学校・高等学校〕

이쁜 바다랑 사투리가 최고의 부산 아이가

2022
韓日交流
作文
コンテスト

駐日韓国文化院 www.koreanculture.jp

駐大阪韓国文化院 www.k-culture.jp